

日韓の義務教育における英語教科書の比較研究

—— 小中連携英語教育の将来像検討のために ——

高橋 一幸

1. はじめに

1.1. 小学校英語の位置づけと現況

2002年度（平成14年度）より実施された新教育課程では、小学校第3学年より、中学校・高等学校まで「総合的な学習の時間」が新設された。これは「新時代の課題に対応し、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるため、自ら思考し、判断し、行動し、表現する『生きる力』を育成するための、教科の枠を超えた横断的・総合的な学習を行う」ものであり、「学校や地域の特色、児童・生徒の興味関心に応じた課題を学校ごとに設定する」とされている。そして、横断的・総合的な課題としては、「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」が例示された。

小学校学習指導要領では、「国際理解に関する教育活動の一環として外国語会話等を行うときには、学校の実態に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること」とされている（文部省：1998a,「総則」3.5.(3)より）。これが、現在、小学校で行われているいわゆる「英語活動」の教育課程上の位置づけであり、現時点では、小学校英語はあくまで「総合的な学習の時間」の中の「国際理解」教育の一環であり、中・高等学校のような外国語としての英語を体系的に学び、その習得を図る「教科」としての英語教育ではない。

文部科学省が実施した「小学校英語活動実施状況調査」によると、小学校の総合的な学習の時間において約8割の学校が英語活動を実施しており、特別活動等も含め、何らかの形で英語活動を実施している学校は、全小学校の93.6%に及んでいるという。第6学年では、英語活動を実施している学校のうち97.1%が「歌やゲームなどの英語に親しむ活動」に、94.8%が「簡単な英会話（挨拶や自己紹介など）の練習」に取り組み、また、73.0%が「英語の発音の練習」を行っており、年間の平均授業実施時数は第6学年で13.7単位時間（1単位時間は45分）であるという（中央教育審議会教育課程部会：2006）。

実施率93.6%とはいえども、その実施は各学校の自主性に任されており、年間配当時間も、内閣府から構造改革特区の指定を受けて、英語を教科として指導し、国語と社会科を除くすべての教科を英語で教える群馬県太田市の小学校（ぐんま国際アカデミー）のような現行教育課程の枠を超えて実施する教育特区の特例校を除く一般公立校においても、週1時間年間35回程度実施している学校から、教育委員会からのALT（外国人英語指導助手）の派遣を待って学期に1度年間3回程度の学校まで千差万別であり、教育内容も学校間格差が極めて大きいのが実情である。これは、憲法が保障する教育の機会均等にも抵触する可能性のある問題であり（菅：2006）、中央教育審議会教育課程部会・外国語専門部会でも、「教科としての英語教育の

可能性も含め、今後も積極的に検討を加える必要性」が提言され、小学校英語の教科化も視野に入れた今後の教育課程の検討が現在進められているところである。

1.2. 小学校英語の理想と課題

現時点で、文部科学省から発行された唯一の公的参考資料である『小学校英語活動実践の手引き』（文部科学省：2001）では、各小学校で教育目標を設定し、児童の興味・関心を捉えて適切な題材を選定し、①「英語活動」、②「調べ学習」、③「国際交流活動」の3つの学習活動を有機的に結び付けて指導することが求められている。

例えば、買い物のスキット（①英語活動）の体験後、興味を持った子ども達が外国の通貨を調べ（②調べ学習）、それを再び英語活動に取り入れる、学期末などに近隣の外国人を招いて英語を使って不用品のバザーを開く（③国際交流活動）、収益金の有効な使い途を調べて話し合い（②調べ学習）行動に移すなど、①～③の3つの学習活動を有機的に結びつけた、まさしく「総合的な学習」が意図されているのである。

筆者はここ数年間、学校長や教育委員会の要請で、横浜市立立野小学校（文部科学省研究開発学校、神奈川県英会話活動研究委託校、横浜市英語活動推進校）、横浜市立齋藤分小学校（横浜市英語活動推進校）、川崎市立宮前平小・中学校（川崎市教育委員会小中連携推進校）などの指導助言に携わっており、所属する日本児童英語教育学会（JASTEC）でも、様々な公立小学校の授業を見、実践報告を聞く機会が多々あるが、現場の小学校教員の負担は多大なものがある。「教科」でないから検定教科書はなし、学校独自の目標を定め、指導内容や言語材料を選定し、3つの学習活動を連携させたシラバスを作成して指導する。これは高度に専門的な作業である。2006年にNHKが全国1,842のすべての市町村教育委員会に対して実施したアンケート調査（回答数1,176）でも、75%の自治体が小

学校英語教育に今後必要なものとして「授業内容の具体的指針」を挙げている。自由記述にも以下のような回答が目立つ。

・内容や方法などわからない点が多く、試行錯誤しながら進めているのが大きな悩みである。小学校の教員は英語の免許は持っておらず負担感は大きい。（岩手県）

・先生方は良い授業作りを目指して頑張っている。しかし、英語活動の授業のあるべき姿、イメージがないため、ともすれば頑張りが空回りになることがある。（群馬県）

・子どもに何の力をつけさせたいのか、何を目標に進めていくのかははっきりしない。担任に任せるのは実質無理がある。（大阪府）

小学校には現時点では通常、英語教員免許を有する教員はいない。将来を展望すれば、児童に英語を指導する専門知識と技能を有する教員の養成も必要で、ALTや英語に堪能な地域のボランティア頼みでは教育行政としてはなほだ不十分と言わざるを得ない。また、現行の制度下では、小学校での学習を土台とした中学校教科書を編纂し、それを使った積み上げ指導をすることは不可能である。国の外国語教育政策として、英語による実践的コミュニケーション能力の底上げを図るなら、この制度上の不経済性は構造的欠陥とも言えよう。小・中の有機的な連携を図る観点からも、小学校での英語がここまで広がってきた今日、国の政策として、小学校英語の教育課程上のより明確な位置づけ—教育目標の明示と、それを達成するのに必要な時間数設定と優れた教材の提供—が急務であると考える。

1.3. 本稿の目的

以上のようなわが国の現状をふまえ、将来の小学校英語の教科化も視野に入れて、本稿では中学校英語教育に有機的に連結しうる小学校英語教育のあり方について考える資料として、アジアの隣国であり、母語の韓国語が構造的にも日本語と類似し、英語との言語的距離も日本語

に近く、日常生活場面で目標言語である英語に触れる機会は少なく、外国語としての英語(EFL: English as a Foreign Language)を学ぶという点で、日本と同じ外国語学習環境にある韓国の英語教育との比較検討を行いたい。

韓国では1997年から小学校第3学年から「教科」としての英語教育を導入した。小学校段階で、時数や指導内容はもとより実施の如何さえ学校の裁量に任されている日本と、正式な教科として、定められた教育目標とシラバスに基づいて編纂された「教科書」を使って指導している韓国の英語教育の制度上の差が、(1)中学校入門期の指導内容にいかなる差として現れるのか、(2)義務教育終了段階の中学校卒業時点での学習到達度にいかなる差として現れるのかを分析し、(3)今後の日本の小・中連携の英語教育のあり方について検討する一助としたい。

そのために、本稿では、

- ①韓国の小学校国定教科書の内容を詳細に分析・検討し、それをふまえて、
- ②日・韓の中学校検定教科書の文法指導シラバスを比較検討するとともに、両者の中学校第1学年入門期の第1課、および、第3学年の最終課の内容を比較分析し、考察を加える。

2. 韓国の英語教育事情

「10年も英語を勉強しているのに話せない」という批判は、日本だけでなく韓国でも同じように言われている。こうした批判に応える形で、韓国では1997年から小学校3年生からの「教科」としての英語教育の導入に踏み出した。

2.1. 小学校

日本の『学習指導要領』にあたる韓国の改訂『教育課程』(1995年11月1日告示)では、「国民学校英語教科は、児童が日常生活で使用する、簡単に基礎的な英語を理解して表現する能力を養ってくれる教科である。(中略)内容はコミュニケーションの基礎になる英語技能教育、その中でも音声英語教育が主になる。音声英語教

育は発音、抑揚、発話などを自然に習得することができる内容とする。文字英語教育は意味と理解を漸進的に発展させる内容にする。音声言語と連携して有機的に指導しながら、低学年では文字認識水準に制限し、高学年では文字水準の音声理解を助ける補助手段として文字表現を扱う」(樋口ほか編1997: 67)とされている。

また、覚える単語の数は、「語彙は3年生で単語100語を使用し、それに追加して、4年生で100語、さらに5年生で150語、6年生で150語と増やすことを勧めている」(樋口ibid.: 68)とある。

初等学校の英語教科書は、2001年度以降、教育人的資源部(旧教育省)編集の国定教科書1種類に定められ、音声テープやマルチメディアのCD-ROMなど教科書準拠教材も完備され、各活動の英文音声スクリプトと、英語の指示の与え方や韓国語での説明、宿題の与え方まで、授業のWarm-upからClosingまでの指導手順を具体的に記した総ページ数213ページ(3年生)~376ページ(6年生)に及ぶ詳細な『教師用指導書』(Teacher's Guide, 教育人的資源部編: 2002b)が提供され、英語専科教員はもとより、現時点では大多数を占める英語専門外の担任でも単独指導が可能な状況が準備されている(樋口ほか編2005: 9)。

教科書は、3・4年生用が全8課、5・6年生用は全16課から成る。3・4年生ではカセット



[韓国小学校教科書と準拠教材]

の音声による英語を聞いて活動したり、歌を歌ったりすることが中心で、4年生から段階的に文字に触れさせ、6年生の最終段階では、40字程度の簡単な手紙を読み、それを参考に自由に手紙を書かせる自己表現としてのライティングが設定されている。英語は小学校の必修科目であり、3・4年生では週1時間（年間34時間）、5・6年生では週2時間（年間68時間）の計204単位時間教えることになっている。

2.2. 中学校

日本と同様、韓国でも「コミュニケーション能力の育成」を英語教育の目標に掲げて取り組んでいる。2001年3月からは第7次教育課程が実施され、中学1年生の英語の授業は、英語だけで進められることになり、2004年からは小・中・高校の英語の教科書はすべて会話中心の内容に重点を移すことになると発表された。

中学校では週4時間、年間136時間を教えることになっており（樋口1997：51、表3より）、教科書は現在6社の民間出版社が発行する検定教科書（5年に一度改訂）が採択され使用されている。

3. 韓国の小学校英語教育の内容

本章では、以下、韓国の小学校国定教科書である *ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH*. 3～6（教育人的資源部編2002a）の内容を、中学年（3・4年生）・高学年（5・6年生）の教科書構成の特色、各課の目標文法事項と主な音声ならびに文字テキストの内容、児童に課される主な活動内容の概要をできる限り詳細に記述したい。

教科書内容の記述に際しては、4年生以降では【文字指導】の項を設け、アルファベットの文字の導入から単語、文、文章の読み書きへの段階的、継続・発展的な取り扱い方にも注目していきたい。

3.1. 小学校 第3学年・第4学年

3.1.1. 教科書構成の特色

まず何より目を引くのが豊富な楽しい絵や写真である。全ページに渡り、グラフィックデザイン風や手描き風のフルカラーのイラストがある。このイラストを見れば、各課でどんなことを扱うのか、活動はどうするのかよく伝わってくる。

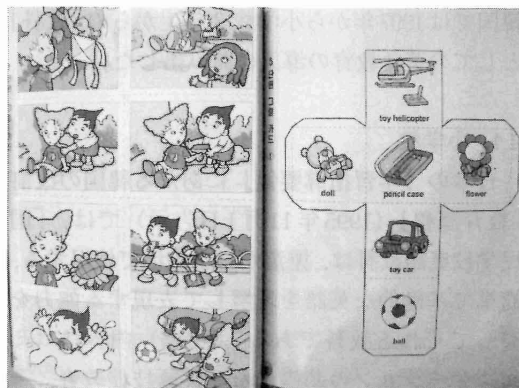
3年生では、あとに示す [Look and Listen] などの活動小見出しの表示を除き、児童の学習のための英語の文字は一切テキストに現れない。

4年生では表紙見返しにアルファベットの大文字・小文字の一覧と、フォニックスをふまえて、例えば、A, a—apple など、その文字を含むイラスト付きの単語の綴り字、[Let's Read] でアルファベットや簡単な単語（数字、bag, doll など）、および最後の課である Lesson 8 の双六ゲームなどで、pencil, baseball, sister などの名詞の綴り字がいくつか示されているが、他はすべて絵のみで構成されている。活動等の指示文はすべてハングル文字で記されている。

各課とも10ページが配当され、計8課から成る。各課の構成は次の通りである。

Look and Listen (1), (2), Listen and Repeat (1), (2), Let's Play (1), (3), Let's Chant, Look and Speak（4年生では Let's Read）, Let's Sing, Let's Role-play, Let's Review

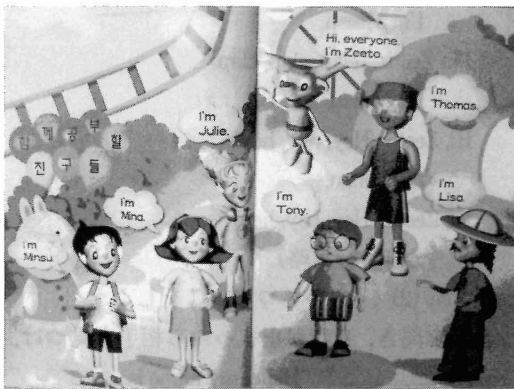
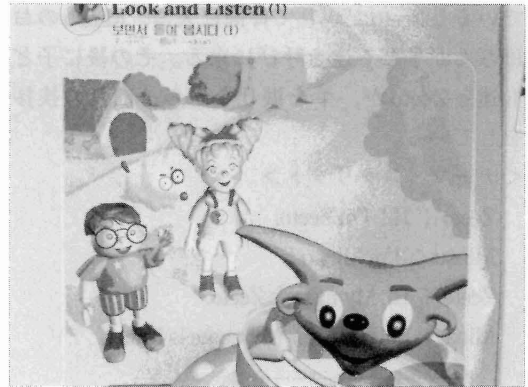
巻末には上質厚紙で切り取り可能な絵カード



〔巻末の絵カード例〕

が6～8ページ分ついている。数字や食べ物、動物やスポーツ、また身の回りの物、表情、歌う・踊るなどの動作を表す絵が描かれたカードである。カラーのカードがほとんどであるが、中には自分で好きな色を塗って使う物もあり、各課の [Let's Play] や [Let's Review] などで見えるように工夫されている。

登場人物は、Minsu(韓国人)、Thomas, Tonyの男子3人、Mina(韓国人)、Julie, Lisaの女子3人と「宇宙人」のZeetoである。



【教科書の登場人物】

3.1.2. 第3学年の学習内容

(巻末付録を除き、B5判92ページ)

以下、各課の内容について見ていきたい。第1課については、教科書各課の構成と指導の流れ、児童の活動を知るために、見出し項目ごとにその内容を詳しく紹介し、第2課以降については、「場面や機能」、「表現形式」、「語彙」および「活動」について、その概要を示すこととする。なお、テープ・スクリプトや活動の具体的内容については、『教師用指導書』（教育人的資源部編2002b）を参照した。

<3年 Lesson 1> “Hello, I’m Minsu.”

Look and Listen (1) : 「見ながら聞こう。」

主人公のJulieとTonyが外にいるところに宇宙人のZeetoがUFOに乗ってやってくるイラストを見て、内容を児童に想像させた後、この絵

の動画をCD-ROMでも見せながら、以下のダイアログを聞かせる。

<テープ・スクリプト>

Zeeto : Hi!

(気づかない二人にもう一度) Hello!

Tony : (驚いて) Hi!

Zeeto : Hi!

Julie : Hello, I’m Julie.

Zeeto : Hello, I’m Zeeto.

Listen and Repeat (1) : 「聞いてくり返えそう。」

廊下、教室、公園で、それぞれ2人の児童が話している3枚の写真がある。テープの後について基本文を模倣反復することで、挨拶や自己紹介の基本的な形を身に付けさせる。

<テープ・スクリプト>

① Minsu : Hi, Julie.

Julie : Hi, Minsu.

② Mina : Hi, I’m Mina.

Thomas : Hello, I’m Thomas.

③ Lisa : Hello, I’m Lisa.

Tony : Hi, I’m Tony.

Let’s Play (1) : 「ボール投げ遊びをしよう。」

6人1グループで輪になってパスをし合い、ボールを渡された人が “Hi, I’m _____.” や、“Hello, I’m _____.” の形で自己紹介するゲームを行う。

Look and Listen (2) : 「見ながら聞こう。」

2枚の連続する絵を見ながら英語を聞かせる。MinsuとMinaが「かくれんぼ」をして遊ん

でいると Zeeto が現れて仲間に入る。Minsu のお母さんが子ども達を呼びに来る。その後子ども達と Zeeto が、手を振りながら、別れの挨拶をしている。

<テープ・スクリプト>

Zeeto : Hi! I'm Zeeto.

Minsu : I'm Minsu.

Zeeto : Hi, My name's Zeeto.

Mina : Hello, Zeeto. My name is Mina.

Minsu's mom : Minsu, Mina!

Minsu, Mina : Bye, Zeeto.

Zeeto : Bye!

Listen and Repeat (2) : 「聞いてくり返えそう。」

家の玄関の前、公園のベンチ、教室で、2人の児童が話している写真がある。出会ったときや別れの挨拶をテープのあとについて練習する。

<テープ・スクリプト>

① Mina: Hi, I'm Mina.

Julie: Hi, my name is Julie.

② Tony: Hi. My name is Tony.

Lisa: Hello. My name is Lisa.

③ Minsu: Bye, Thomas.

Thomas: Bye, Minsu.

Let's Chant : 「チャンツで覚えよう。」

以下のチャンツ（リズム練習用教材）を軽快なビートのリズムに乗って何度も言い楽しみながら目標文を覚えさせる。



教科書にはチャンツの英文は提示されず、写真に示したヒントとなる4枚のイラストがあるだけで、準拠のCD-ROMでは、チャンツとともに、その内容を表す4枚のコマ絵が順に現れるようになっており、文字の助けなしでも児童が映像と音声のみで無理なく目標文を覚えられるように工夫されている。

次にチャンツの音声スクリプトを掲載する。Clap, clap, clapの箇所では児童は手をたたく。

I'm Minsu.

I'm Zeeto. (clap, clap, clap)

I'm Minsu.

I'm Zeeto. (clap, clap, clap)

Hi, Minsu.

Hi, Zeeto. Hey, hey, hey!

Hi, Minsu.

Hi, Zeeto. Hey, hey, hey!

(以下8行省略)

Let's Play (2) : 「あいさつごっこをしよう。」

音楽を聞き、音楽が止まったら相手を見つけ、「Hi, I'm _____.” “Hello, my name is _____.” “Bye.” の形で友達と自己紹介をし合うゲームを行う。

Look and Speak : 「絵を見て話そう。」

主人公の子ども達が、自己紹介をする、手を振って別れる2枚の絵を見て、児童にペアや3人グループで対話させる。

<テープ・スクリプト>

① Julie: Hello, I'm Julie.

Zeeto: Hello, I'm Zeeto.

② Minsu, Mina: Bye, Zeeto.

Zeeto: Bye.

Let's Sing : 「歌を歌おう。」

自己紹介をしてお別れをする3枚の絵がある。“Hello!” や “My name is ~.” や “Bye!” などの簡単な挨拶が歌詞になった “The Hello Song” を歌う。

3・4年生では、歌を歌う活動においても、前掲の「チャンツ」と同様に、教科書には英語の歌詞は一切掲載せず、歌詞を想起するヒント

となる何枚かのコマ絵のみを示し、準拠のCD-ROMでは歌とともにコマ絵が順次現れ、歌詞を見ずに児童が歌えるように工夫されている。

Let's Play (3) : 「名刺交換ごっこをしよう。」

名刺を交換しながら自己紹介し合うゲームを行わせる。名刺にはハングル文字と数字で自分の名前、電話番号、住所を書き、1人9枚作成する。すべての名刺の交換を終えたら、手に入れた名刺を使ってビンゴゲームを行わせる。

Let's Role-play : 「○○ごっこをしよう。」

つぎはぎのチマチョゴリを着た女の子 (Shim Cheong) と船、綺麗なチマチョゴリを着た女の子 (Kongjiwi) と蛙、つぎはぎの服を着た男の子 (Heungbu) とツバメ (以上は韓国の民話の主人公)、シンデレラ (Cinderella) とかぼちゃの馬車の絵があり、みんな手を振っている。それぞれの物語の主人公になったつもりで、英語で自己紹介する。

Let's Review : 「習った内容を整理しよう。」

本課のまとめとなる「①リスニング」, 「②ロール・プレイ」, 「③ペアによる自己表現のスピーキング活動」の3つの活動が与えられる。

①「挨拶を交わしている人を線でつなごう。」

Minsu, Julie, Zeetoなど5人の登場人物の絵を見ながらテープを聞き、誰と誰が話しているか、人物の絵を線で結ばせる。

②「絵を見ながら話してみよう。」

イヤホンで音楽を聴きながら歩いているJulieを宇宙人のZeetoが呼び止めて話しかける様子が描かれている4コマの絵 (それぞれ空欄の吹き出し付き) を見ながら、2人のセリフを考えて、ペアで会話させる。イヤホンで音楽を聞いているために、呼びかけに気づかぬJulieに対して、Zeetoは“Hello!”と大きな声で呼びかけ、ようやく気づいたJulieは驚いてZeetoに挨拶するなど、場面や状況に応じて音声表現を工夫し、生き生きとことばを使うことを求める活動である。

③「実際の状況で話してみよう。」

対話の状況を表す2枚の絵を見ながら、ペア

で自分たちの名前を使って、出会いの挨拶、自己紹介、別れの挨拶の対話を行う。

<3年 Lesson 2> “What's This?”

第2課以降は、指導の概要を示す。

1. 場面や機能:

指さして「これは何ですか?」とたずねる。

2. 表現形式:

What's this? - It's a pencil.

I'm sorry. - It's OK.

3. 語彙: pen, pencil, book, ruler, eraser, chair, desk, bag, orange, cake など

4. 活動: [Let's Play]: 「カード遊びをしよう。」

巻末付録の上記単語の絵カードを切り取り、ペアやグループで、What's this? - It's a/an ~. の対話練習を行わせる。[Let's Review] では、「自分の物を見せながら、それが何であるかたずね、また、友達の質問に答えてみよう」という活動がある。また、[Let's Chant] で、I'm sorry. - It's OK. を導入し、[Review] の「友達に、失敗したとき謝ってみよう、また、それに答えてみよう」という活動を通して定着を図ろうとしている。

<3年 Lesson 3> “Happy Birthday!”

1. 場面や機能:

友達の誕生日を祝い、“Happy Birthday”の歌を歌う。感謝の気持ちを表現する。

2. 表現形式:

Happy birthday to you. This is for you. Thank you very much. - You're welcome.

3. 語彙: present, box, flower, toy, robot など

4. 活動: [Let's Play] (2): 「プレゼント集め遊びをしよう」では、サイコロを振って、出た目の番号の人に、サイコロを振った人がプレゼントの絵カードを渡すゲームをする。[Let's Sing] では、“Happy Birthday”の歌を歌う。韓国では日本とは違って、メロディーは同じながらも通常この歌を韓国語で歌っているの、英語で歌うのが初めての児童も少なくない。[Let's Play]

(3) : 「プレゼントを交換しよう」は、プレゼントの描かれた絵カードを複数の友達と交換し、表に友達の名前ともらったプレゼントを書くゲームである。

<3年 Lesson 4> “Wash Your Hands.”

1. 場面や機能：

教室、病院、家庭などで、「～しなさい」と人に命令する。身体の一部の名前を覚える。

2. 表現形式：命令文

Open / Close your mouth. Wash your hands carefully. Stand up. Sit down.

3. 語彙：

face, hand, ear, nose, mouth, eye など

4. 活動：顔を洗う・手を洗う、耳・目・鼻・口の英語を定着させるチャンツの後の [Let's Play]

(2) : 「当てっこ遊びをしよう」では、2組の児童が向かい合って並び、応答グループの後ろに立った出題者が「手を洗っている様子」などの絵を出題グループの児童に見せる。出題グループの児童はその動作をジェスチャーで示し、応答グループの児童はその動作を英語で言い当てる。[Let's Review] (3) : 「命令文を言い、言われた通りに行動してみよう」では、ペアになって、一人が指示を、もう一人が指示通りに動作する。いわゆる TPR (Total Physical Response) アプローチで使われる活動である。

<3年 Lesson 5> “I Like Apples.”

1. 場面や機能：

くだものや食べ物について、好き嫌いを言う。

2. 表現形式：

I like apples. I don't like fish.

Do you like ~? - Yes, I do. / No, I don't.

3. 語彙：apple, grape, banana, ice cream, fish, meat など

4. 活動：[Let's Play] (3) : 「好きな食べ物しらべをしよう」では、友達に質問しながら、表に友達の名前を書き、食べ物の好き嫌いについて○×を記入していくゲームを通して、“I like ~.”

の肯定・否定・疑問文の定着を図る。

[Let's Role-play] の代わりに入った [Let's Play] (4) では、教科書巻末の「食べもの絵カード」を切り抜き、好きなものと嫌いなものに分類して台紙に貼り付け、それを見ながら食べ物の好き嫌いについて、児童一人ひとりに発表させる活動が加わっている。

<3年 Lesson 6> “How Many Cows?”

1. 場面や機能：動物園や牧場に行き、動物の数を数えたり、たずねたりする。

2. 表現形式：

How many pigs (do you have)?

- I have four pigs.

3. 語彙：

one ~ ten までの数字, monkey, kangaroo, dog, cat, cow, bear, white bear, lion, pig, on the tree, have (~を飼う) など

4. 活動：[Let's Play] (1) : 「動物カード遊びをしよう」では、動物の絵が描かれたカードを持った児童と、数字の書いてあるカードを持った児童が教室の前に立ち、残りの児童がそれを見て“Five dogs.”などと答えるゲームが、[Let's Play] (2) には、テープを聞いて行う「塗り絵あそび」もある。“How many ~?” の使い方とともに、動物の名前と数字、名詞の複数形 (~s) の使い方も学習する。[Let's Review] (3) : 「友達の家でどんな動物を何匹くらい飼っているかたずね、また答えてみよう」では、“I have a cat.” など「(動物を) 飼う」という意味の一般動詞 have の使い方を学ばせる。

<3年 Lesson 7> “I Can Swim.”

1. 場面や機能：遊びや運動などについて、「～することができる」と言う。

2. 表現形式：

I can swim. I cannot swim.

Help me, please! I'm coming.

3. 語彙：

swim, sing, fly, jump, skate, ski など動作や運動

を表す単語

4. 活動：[Let's Play] (3)：「双六をしよう」では、ペアでサイコロを振って、進んだマスに描かれている絵の動作について英語で質問し、絵の通りに答えるゲームを行う。例えば、溺れている絵のマスに進んだら、“Can you swim?”—“No, I can't.” というように進めていく。

[Let's Review] (3)：「友達がどんな運動をできるのかたずね、友達の質問にも答えてみよう」では、自分と友達のできるスポーツ、できないスポーツを、これまでに学習した表現を用いて表現させる。

< 3年 Lesson 8 > “It's Snowing.”

1. 場面や機能： 天候について話す。

2. 表現形式：

How's the weather?

— It's snowing. / It's rainy.”

3. 語彙：

sunny, fine, cold, warm, snowman, sweater, glove, pants, shoes, wear, make など

4. 活動：[Let's play] (1)では、絵と巻末付録の切り取り用絵カードを用いた「着せ替え人形あそび」により、衣服の名前を覚えさせる。教師の英語での指示により、まずは着せ替え人形の女の子の顔に口と鼻を描き加え、切り取った衣服の絵カードを指示に従って着せていく。

3.1.3. 第4学年の学習内容

(巻末付録を除き、B5判98ページ)

< 4年 Lesson 1 > “Nice to Meet You.”

1. 場面や機能： テレビ電話で外国の家族と話す。初対面のあいさつをする。天気についてたずねる (復習)。

2. 表現形式：

Nice to meet you. — Nice to meet you, too.

How's the weather? — It's sunny in Seoul.

3. 語彙：

cloudy, hot, in, Seoul など韓国の都市名

4. 活動：[Let's Play] (1)「お天気ビンゴをしよう」

では9個あるマス目に天気マークを描き入れ、ビンゴゲームをし、(3)「天気図を完成させよう」では韓国の地図にソウルなど都市が書いてあり、サイコロを振って出た天気を順番に書き入れていく。ここで、“It's rainy in Seoul.” など場所を限定した表現の定着を図ろうとしている。

【文字指導】4年生の教科書から新たに加わった [Let's Read] では、2つの絵の一方にはアルファベットの大文字A～Mが、もう一方には小文字のa～mまでの13文字がそれぞれ書かれており、同じアルファベットの大文字と小文字を線で結び、発音させる活動が初出となる。

< 4年 Lesson 2 > “Don't Do That.”

1. 場面や機能：

ケガをしたり体調の悪い友達に様子をたずねる。「～してはいけません」と注意する。

2. 表現形式：

Are you OK?

— I'm OK. / I have a headache.

Don't run. Don't do that. Watch out!

3. 語彙： headache, bird, bee, kite など

4. 活動：[Let's Review] の最後には、顔色の悪い友達にどうしたのかたずねる活動があり、“Are you OK?” や “I have a headache.” などの表現の定着を図っている。

【文字指導】[Let's Read] には、Lesson 1の後を受けて、アルファベットのN～Zまでの13文字の大文字と小文字を線で結び、発音する活動が見られる。

< 4年 Lesson 3 > “How Old Are You?”

1. 場面や機能： 年齢をたずねる／言う。

依頼する／承諾する。

2. 表現形式：

How old are you? — I'm ten years old.

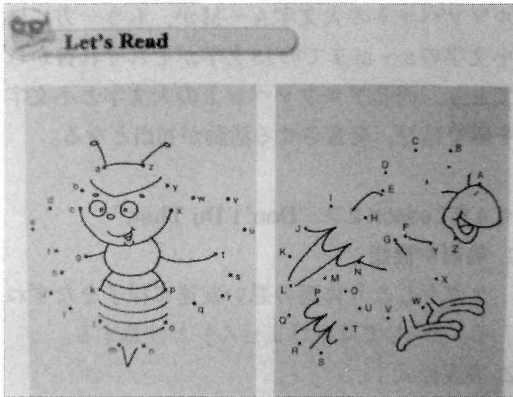
Can you help me? — Sure.

3. 語彙：

dirty, clean, break, room, airplane, mother, father, brother, sister など

4. 活動：[Let's Review] では、友達同士で年齢をたずね合う活動を行う。

【文字指導】次に示す [Let's Read] には、Lesson 1, 2 の文字学習を受けたアルファベットの楽しい復習活動が用意されている。児童が大文字、小文字の点を順に線でつないでいくと、「ミツバチ」と「鳥」の絵が完成する。



また、[Let's Review] の最後に、左右見開きの森のイラストがあり、アルファベットの大きな文字が順に絵の周りを取り囲み、森の絵の中に順不同に隠された小文字 a～z を見つけ出させる活動がある。大文字に比べ、児童にとってよりのなじみが薄く、識別の難しい小文字の学習への配慮が見られる。

< 4年 Lesson 4 > “What Time Is It?”

1. 場面や機能：時刻をたずねる／言う。

2. 表現形式：

What time is it? — It's five o'clock.

3. 語彙：

bed, lunch, have(食べる), go to bed など

4. 活動：[Let's Play] (3)：「時刻を記入しよう」はペアで向かい合い、世界の都市と時刻が書かれた2つの世界地図(天地逆に印刷されている)の一方を見ながら、お互いの絵に書かれている地名と時刻を教え合う information gap 活動である。ここでは時刻の読み方と同時に、世界の都市名や時差についても学習させる。

[Let's Role-play] では、4コマのイラスト見ながら午前零時に魔法の解けるシンデレラになったつもりで、スキット(寸劇)を演じさせる。

【文字指導】[Let's Read] では、“seven, ten, bed, lunch” という「単語の spelling」が初めて提示される。それぞれの絵が描かれた「あみだくじ」があり、単語からくじをたどるとその意味を表す絵に到達するようになっている。個々のアルファベットの文字ではなく、単語の綴り字はここで初出となる。

< 4年 Lesson 5 > “Who Is She?”

1. 場面や機能：

知らない人物について誰なのかたずねる。

2. 表現形式：

The girl is pretty. Who is she?

— She is Mina.

3. 語彙：baby, x-ray, he, she など

4. 活動：[Let's Play] (1)では、友達の顔を描いた絵を持って前に立った児童が特徴を説明して“Who is she / he?” とたずね、だれの絵かを他の児童が当てるゲームを行う。

【文字指導】[Let's Read] では、線をたどれば単語の綴りとその絵が結びつく Lesson 4 の「あみだくじ」よりも難度を一段階上げて、児童自身の判断で Julie の “brother” と “father”, Minsu の “mother” と “sister” の文字と絵を線で結びつける活動がある。

< 4年 Lesson 6 > “Is This Your Cap?”

1. 場面や機能：だれのものかたずねる／言う。

2. 表現形式：This is my dog.

Is this your cap? — Yes, it is. / No, it isn't.

3. 語彙：

cap, cup, computer, pen case, bat など

4. 活動：[Let's Play] (2)では、「えんぴつの持ち主をさがして返却しよう」という課題を児童に与え、誰かの鉛筆を持たされた児童が友達一人ひとりに、“Is this your pencil?” と聞いて回る Task-based activity を行わせ、目標文の定着を図

っている。

【文字指導】[Let's Read] では、いろいろな物のある部屋の絵の中から、綴りを示された cap, book, pencil, bat を見つけ出す。

<4年 Lesson 7> "Sorry, I Can't."

1. 場面や機能：

友達を遊びに誘う。誘いを受ける／断る。

2. 表現形式：Let's play basketball.

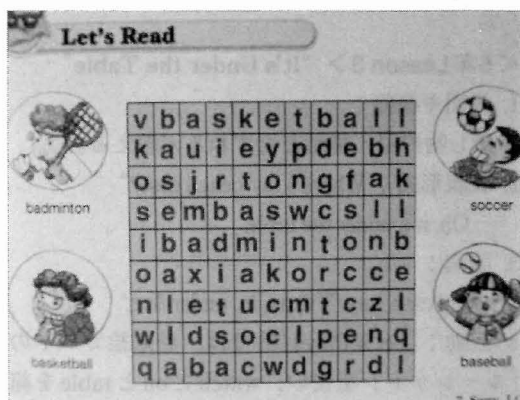
— Sorry, I can't. I'm tired.

3. 語彙：

soccer, basketball, baseball, table tennis, badminton, tennis など

4. 活動：[Let's Review] では、友達を遊びに誘う対話文の聞き取りやペアワークを行わせる。

【文字指導】「ワード・サーチ」(Word Search)



ここでは、単語の spelling に児童の意識を向けさせ、その習得を促すべく、「ワード・サーチ」が初登場する。アルファベットの小文字が無作為に並べられた表の中から、縦・横に隠された “badminton, soccer, basketball, baseball” の4つの単語を探すゲームである。

<4年 Lesson 8> "How Much Is It?"

1. 場面や機能：買い物で、値段をたずねる。

2. 表現形式：

What do you want? — I want a watch.

How much is this watch? — It's 1,000 won.

3. 語彙：

bike, watch, Santa Claus など

4. 活動：[Let's Play] (2)では、文房具や自転車、時計、人形などが描かれた巻末付録の絵カードを使って「買い物ごっこ」をさせる。児童が店員役とお客さん役に分かれてやり取りをする中で、目標表現の定着を図る。

【文字指導】[Let's Read] では、bag, watch, bike, doll という、買い物ごっこで使用した単語の綴りに触れさせている。

3.2. 小学校 第5学年・第6学年

3.2.1. 教科書構成の特色

高学年になると、英語の文字を読ませるだけに留まらず、書かせる練習 [Let's Write] も加わり、質・量ともに格段に増加する。教科書の表見返しには、カラー写真の下に、How are you? Where is Namdaemun? Did you have a nice vacation? など、Lesson 1～16で学習する目標文が文字で提示されている。[Let's Sing] では、3・4年生まではコマ絵のみで提示されていた英語の歌についても、楽譜とともに歌詞が提示されるようになる。[Let's Chant] でも同様に英文が提示される。

第3・4学年の週1時間から週2時間への単位増に伴って教科書のレッスン数も増え、計16課(各課8ページ配当)から成る。各課は、Look and Listen(1), Listen and Repeat(1), (2), Let's Play(1)～(3), Look and Speak, Let's Sing, Let's Read, Let's Write, Role-play, Review から構成される。

巻末付録の切り取り可能なカラー絵カード、単語カード、センテンス・カードは、実に30ページ分も提供されており、本文136ページに加えて、テキストをさらに厚くしている。

5・6学年の登場人物は、Jinho, Nami, Joon (以上、韓国人児童), Mrs. Smith, Bill, Ann, Peter になる。

3.2.2. 第5学年の学習内容

(巻末付録を除き、B5判136ページ)

<5年Lesson 1> “How Are You?”

1. 場面や機能:

友達にあいさつをし、調子はどうかたずねる。

2. 表現形式: How are you today?

— I’m fine, thank you. How about you?

3. 語彙:

fine, name, desk, chair, window, door, classroom, egg など

4. 活動:

【文字指導】 [Let’s Read] では、「窓」などの絵を見て、「w → i → n → d → o → w」のように、例えば☆印の文字をたどっていくと正しい綴り字 (window) に行き着くゲームがあり、児童の spelling への意識を高めている。

5年生から加わった [Let’s Write] では、四線の上にイラスト付きで示された apple, book, cat, dog, egg などの簡単な「単語を書き写す」練習が初出となる。これらの単語の筆写 (copying) 活動では、綴りと発音の関係を指導するフォニックス (Phonics) も取り入れられている。その後、A → () → C → () → (), a → b → () → d → () など、アルファベットの大文字・小文字を順に書き入れたり、DESK → () () sk, NAME → n () m () など、大文字で書かれた単語を小文字に書き換えさせる穴埋め練習が続く。

<5年Lesson 2> “What Day Is It Today?”

1. 場面や機能: 何曜日からかたずねる。

2. 表現形式: “What day is it today?” — “It’s Wednesday.”

3. 語彙:

Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday など

4. 活動:

【文字指導】 [Let’s Play] (1) では巻末付録の曜日カードを切り取ってグループ毎に机の上に並べさせ、トランプの「神経衰弱ゲーム」を行いな

がら曜日の綴り字への習熟を図る。5年生のCD-ROMには、「神経衰弱」のマルチメディア・ゲームも用意されており、記憶を頼りに児童がコンピュータのマウスを操作して絵カードとスペリング・カードをクリックすると、カードがそれぞれ表向きに返り、絵と綴りが合えば正解のチャイムが鳴って2枚のカードが消え、間違うとブザーが鳴って再びカードが裏返る仕掛けになっており、楽しく学習しながら単語の綴りが習得できるよう工夫されている。

[Let’s Sing] では、英語の歌 “What Day Is It Today?” を「歌詞を見ながら」歌わせる。

[Let’s Read] では、Sun.などの曜日の綴りの略表記と正式な綴りとの比較、また、渦巻き状に並べられたアルファベットの中から、曜日名を探し出す「ワード・サーチ」を行う。

[Let’s Write] は、f ~ j の文字で始まる単語 (fish, goat, hat, ice, juice) の筆写練習である。

<5年Lesson 3> “It’s Under the Table”

1. 場面や機能:

探し物の際、場所をたずねる／教える。

2. 表現形式: Where’s my pencil case?”

— Oh, it’s under the table.

3. 語彙:

pencil case, key, TV, on, in, under など

4. 活動: [Let’s Play] (3) では、巻末絵カードの「ルーレット」を使い、watch と on と table を組み合わせて “The watch is on the table.” と文を作る活動があり、さらに、それをもとに [Activity] の部屋のイラストの中に、watch, bat, cap, pencil の絵を描き込み、ペアでそれぞれのありかをたずね合わせる。

【文字指導】 [Let’s Chant] もテキスト、CD-ROMともに、絵とともに「英文が提示」され、児童は文字をヒントにチャンツを発話することとなる。

[Let’s Read] では、絵を見ながら、box, pencil case, table のそれぞれの文字をつないで単語を作り、文字で示された前置詞 on, in, under と結び

付け, on the box, in the pencil case, under the table の前置詞句を作り発話するというかなり複雑な活動がある。

[Let's Write] には, k~o の文字で始まる単語 (key, lion, monkey, nine, orange) の筆写練習がある。

<5年 Lesson 4> "What a Nice Day!"

1. 場面や機能:

驚きの気持ちを表現する。

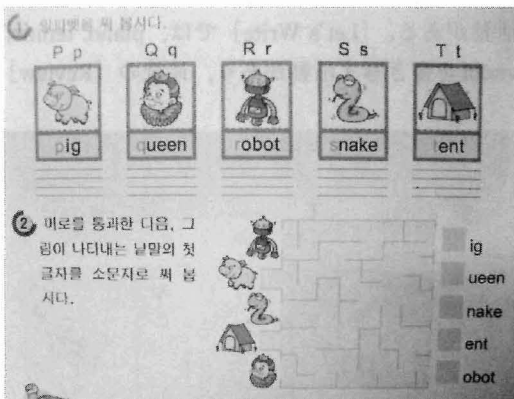
2. 表現形式:

What a nice day! What a tall tower!

3. 語彙: wonderful, beautiful, tall, sky, big, city, queen, snake, tent, rose など

4. 活動: [Let's Play] (1) では, 大きな塔やきれいなバラやたくさんのビルが並ぶ絵が描かれた巻末の絵カードを使って, ペアとカードを見せ合い, "What a beautiful rose!" などの感嘆文を作り, 感情を込めて発話する。

【文字指導】 [Let's Write] には, p~t の文字で始まる単語 (pig, queen, robot, snake, tent) の筆写練習がある。これに続く「迷路」(Maze) の活動では, ロボットのイラストから, ()obot に行き着き, 語頭に r の文字を書き加えるなど, 迷路をたどり, 行き着いた単語に「1文字付け加えて単語を完成させる」活動がある。



<5年 Lesson 5> "Where Is Namdaemun?"

1. 場面や機能: 道をたずねる。道案内する。

2. 表現形式:

Excuse me. Where is Namdaemun?"

— Go straight and turn right at the bank.

You can't miss it.

Thank you. — No problem.

3. 語彙:

way, right, left, bank, school, church など

4. 活動: [Let's Play] (3) では, 道のかかれた地図と, 場所のかかれたサイコロを使ってペアで道をたずね, 答え合うゲームをする。

【文字指導】 [Let's Read] には, bank, school, church, right, left, straight の綴りを探し出す「ワード・サーチ」があり, 単語を見つけたら, Where is the bank? Go straight. など学習した文を発話する練習がある。[Let's Write] には, u~z の文字で始まる単語 (umbrella, violin, window, X-ray, yellow, zoo) の筆写練習があり, アルファベットの太文字・小文字のまとめの練習として, アルファベットの空所に太文字・小文字を補って書く練習が続く。

<5年 Lesson 6>

"I Get Up at Seven Every Day."

1. 場面や機能: 日課を言う。

2. 表現形式:

I get up at seven every day.

I wash my face at seven thirty.

3. 語彙:

go to school, do one's homework, breakfast, dinner, study, candy など

4. 活動: [Let's Play] (3) では, 巻末の絵カードを使って自分が起きる時刻などをカードに書き込み, グループで発表し合う。絵カードは二種類あり, ひとつは起床・登校などの様子が描かれて時刻は空白になっており, 実際の自分の日課時刻を書き込んで使用する自己表現のためのカード, もう一方は例えば, 英語の勉強をする絵と, 9:00, 11:00 など2つの時刻が書かれたもので, これらは, "I study English from 9:00 to 11:00." などの文を作らせるためのドリル用

カードである。

【文字指導】 [Let's Read] には、ヒントの絵がついた単語 (breakfast, lunch, dinner, study, homework, bed) を読む活動。さらに、絵を見て単語を発音し、その綴りを渦巻状の「ワード・サーチ」の中から探す活動がある。「絵のみをヒントにして綴りを探し出す」活動はここが初出である。[Let's Write] には、c で始まる単語 (cat, cup, candy) を何度か書き写す活動がある。

< 5 年 Lesson 7 > “She's Tall.”

1. 場面や機能：
友達を紹介する。体や物の特徴を言う。
2. 表現形式：
She is tall. She is my teacher.
3. 語彙： uncle, big, small, long, short, hair, have / has (身体的特徴を「持つ」) など
4. 活動：

【文字指導】 [Let's Play] (3) では、グループで向かい合って「カード交換ゲーム」を行う。巻末付録の絵カードは、例えば、“She / a small nose” という文字と、大きな目をした男の子の絵の 2 つがセットになっている。そのカードを持つ児童が、“She has a small nose. He has big eyes.” と発話すると、相手グループで、“He / big eyes” の文字と小さな鼻の女の子の絵がセットになったカードを持つ児童がカードを相手に渡す。「文字を読んで発話できる」ことが前提となる活動である。

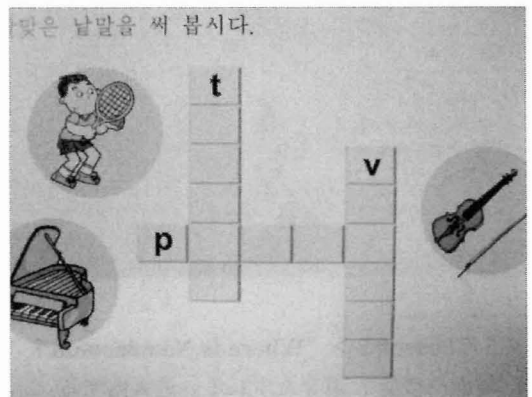
[Let's Read] では、big - small, long - short などペアになった反意語から絵に合った単語の綴りを選ぶ活動や、[Let's Write] では、体の名称 (face, nose, mouth) を何度か筆写する活動がある。また、[Review] では、絵から「あみだくじ」をたどり、eyes, face, ears, hand という「単語を文字のヒントなしに独力で書く」ことに初めて挑戦する活動がある。直前に筆写練習した face と、残る 3 つは [Let's Read] で綴りを示した単語である。「綴り字の記憶を要求する活動」はここが初出である。

< 5 年 Lesson 8 > “Let's Go Swimming.”

1. 場面や機能： 友達を買い物や遊びに誘う。
2. 表現形式：
Let's go shopping. — OK, sounds great.
3. 語彙：
swimming, hiking, skating, fishing, camping, rock, paper, scissors など
4. 活動： [Let's Chant] では、以下のように既習の語彙と文構造で作成されたチャンツ “Let's Go Swimming.” を文字で提示し、それを見ながら練習させている。

Let's go swimming.
Sorry, I can't. I have a piano lesson.
Sorry, I can't.
Let's go shopping this Saturday.
Sounds great. I like shopping.
Let's go hiking this Saturday.
Sounds great. I like hiking.
Let's go shopping. Let's go hiking.
Let's go shopping. Let's go hiking.
Rock, paper, scissors. Rock, paper, scissors.
I'm the winner. Let's go shopping.
OK, sounds great.

【文字指導】 [Let's Read] には、絵を見て、「ワード・サーチ」の中から shopping, swimming, hiking, fishing, camping の単語の綴りを見つける活動がある。[Let's Write] では、piano, tennis, violin を書き写す活動があり、最後の [Review]



で、児童は同じ3つの単語について、絵をヒントにした「クロスワード・パズル」に挑戦する。ゲームを楽しませながら、児童の「**spelling**の記憶を試す活動」である。

このように、いろいろな活動を通したスパイラルな練習によって、無理なく単語のspellingに慣れ親しませようとする配慮が見られる。

< 5年 Lesson 9 > “Whose Boat Is This?”

1. 場面や機能：持ち主をたずねる。
2. 表現形式：Whose boat is this?
— It’s mine. / It’s not mine.
3. 語彙：school bag, glue, mine, yours など
4. 活動：[Review] (3)では、学校の落し物保管所で、落し物が誰のものかたずね、落し主が見つかったら、その人に今後注意をするように呼びかける活動を行わせる。

【文字指導】[Let’s Write]では、mother, father, sister を書き写す活動があり、さらに次の活動では、brother を加えた4つの単語について、文字を追ってゴールにつなぐ「迷路」の活動がある。

< 5年 Lesson 10 >

“Do You Want Some More?”

1. 場面や機能：食卓で食べものをすすめる。
2. 表現形式：Do you want some more?
— Oh, yes, please. / No, thanks.
3. 語彙：rice cake, pizza, sandwich, hamburger, knife, fork, spoon, chopsticks, full, help yourself, thanks など
4. 活動：[Activity]では、できるだけ多くの友達と対話して、同じカードを集める活動を行わせる。ピザの絵など6種類ある巻末絵カードから好きな物をひとつ決めて友達と交換してできるだけ多く自分の絵カードを集めるために、“Do you have a pizza?” “Yes, I do.” “Do you want a hamburger?” “Yes. Let’s change our cards!” などの対話を行う。

【文字指導】[Let’s Read]では、単語の綴りと

絵を見て、spoon, knife, cake, fork がそれぞれいくつあるか数え、それぞれの綴りの下にその個数を記入する活動がある。[Let’s Write]では、grape, pear, banana を書き写す。

< 5年 Lesson 11 > “What Are You Doing?”

1. 場面や機能：何をしているところかをたずねる。
2. 表現形式：What’s he doing? — He’s playing soccer.
3. 語彙：excellent, kick, clean, make, run など
4. 活動：[Activity]では、ペアに分かれて、一方は絵の描かれたカードを持ち、もう一方が質問しながらどんな絵が描かれているのか想像して描いてみる活動を行う。例えば、バスケットボールをしている絵を持っていれば、“What are you doing?” — “I’m jumping.” “What do you have?” — “I have a ball.” などと問答しながら絵を描いていく。

【文字指導】[Let’s Read]では、動作動詞 wash, jump, clean, run, make, kick の綴りを見て絵を選ぶ活動、[Let’s Write]では、sing, fly, dance を書き写す活動、[Review]では、無作為に並んだ20マスの中のアルファベットを見て、その中から単語 (fly, sing, jump) を見つけ書き出す「ワード・サーチ」を行わせる。

< 5年 Lesson 12 > “This Is a Bedroom.”

1. 場面や機能：家の中を案内する。
2. 表現形式：This is a living room. That’s a bed room.
— Oh! What a wonderful room!
3. 語彙：look around, in the future, house, bathroom, bedroom, kitchen, living room, backyard, computer, towel, toothbrush など
4. 活動：[Activity]では、家の部屋割りが描かれた絵と巻末絵カードを使って文を作って言う活動をする。例えば、テレビを見ている部屋の絵には “living room” と書かれており、それと

部屋の絵を指しながら “This is a living room. I watch TV in the living room.” などと言う。

【文字指導】[Let's Read] では、さまざまな字体で書かれた単語を読む活動が、[Let's Write] では、table, chair, desk を書き写す活動がある。

< 5年 Lesson 13 >

“What Did You Do Yesterday?”

1. 場面や機能： 昨日の出来事について話す。
2. 表現形式： What did you do yesterday?
— I went to Riverside park.
3. 語彙：
did, yesterday, went, played, studied, watched, swam, used, fun, science, museum, telephone, park, river など

4. 活動：[Let's Play] (3)では、先週何をしたか、相手を変えてたずね合うペア活動 (flexible pair work) を行わせる。巻末付録として添付された「調査票」(活動記録用紙)は、月曜日～日曜日の欄に友達の名前と、その日にしたことをハンゲルで記録するようになっている。児童は曜日ごとに、別の友達にたずねるように指示される。教師にとっては、活動用のワークシートを作成する手間がかからない親切なテキスト構成である。

【文字指導】[Let's Write] では、バドミントン・バスケットボール・野球の絵の横に四線が引かれ、そこに単語を書かせる活動がある。

< 5年 Lesson 14 > “Is Peter There?”

1. 場面や機能： 電話で話す。約束をする。
2. 表現形式：
Hello, this is Nami. Is Peter there?
— Speaking.
Can we meet at the park?
— OK. See you there.
3. 語彙： listen, buy, meet など
4. 活動：[Review] には、友達に英語で電話をかけて一緒に何をして遊ぶか、何時に待ち合わせるかを決める活動がある。児童は、“Hello,

this is Nami. Let's play soccer.” “Sounds good. Can we meet at the park?” “OK. See you then.” など、数往復の対話を行う。

【文字指導】[Let's Write] では、ライオン 1 頭・ウサギ 2 匹・ネコ 3 匹・アリ 4 匹の絵を見て、四線の上に、one lion, two rabbits などの単語を書かせる活動がある。また、3475-2681 など電話番号の下に書かれた、three - () - seven - five - () - six - eight - () などの空欄に数字の綴りを書き入れさせる活動、[Review] には、絵をヒントに「迷路」をたどり、tele → phone, mov → ie, sp → eak など単語の綴りを完成させるゲームもある。

< 5年 Lesson 15 > “Can You Join Us?”

1. 場面や機能：
一緒に参加するよう呼びかける。
2. 表現形式：
Let's make a snowman. Can you join us?
— Oh, sure. / Sorry, I must go home.
3. 語彙：
come on, everybody, sure, How about you? must, brown など
4. 活動：[Review] では、友達をバスケットボールに誘い、誘われた友達は “I must ~” を使って誘いを断る活動をする。

【文字指導】[Let's Write] では、晴れ・雨・強風・曇りの絵を見て、sunny, rainy, windy, cloudy を書かせる活動が、[Review] には同じ単語を使った「クロスワード・パズル」がある。

< 5年 Lesson 16 >

“Did You Have a Nice Vacation?”

1. 場面や機能：
休みに何をして過ごしたのかたずねる。
2. 表現形式：
Did you have a nice vacation?
— Yes, I did.
What did you do?
— I went to my uncle's house.

3. 語彙：vacation, visit, help, family, grandparents など

4. 活動：[Let's Play] (2)では、グループで「双六」ゲームを楽しむ。巻末の「双六」には、釣りやスケート、おじいさんに会いに行くイラストなどが描かれており、サイコロを振って進んだ目のマスを見て、「I went fishing.」などの文を発話し、「双六」を楽しみながら、規則動詞、不規則動詞の過去形の定着を図る。

【文字指導】[Let's Write]では、感情や体調を表す形容詞happy, sad, sick, hungryを筆写させる活動がある。また、bat → ten → 鼻の絵 (nose) → 卵の絵 (egg) → ぶどうの絵 (grapes) → (s...)と語末の文字で「しりとり遊び」(word-chain)をして単語を書かせる活動もある。最後の(s...)はヒントの絵が与えられておらず、児童は「自らsで始まる単語を思い出して、その綴りを書く」ことになる。

3.2.3. 第6学年の学習内容

(巻末付録を除き、B5判136ページ)

<6年 Lesson 1> “Where Are You from?”

1. 場面や機能：出身国や場所をたずねる。

2. 表現形式：Where are you from?

— I'm from Singapore.

Where is your classroom?

— It's on the second floor.

3. 語彙：

first, second, third, fourth, floor など

4. 活動：[Let's Play] (3)では、韓国・アメリカ・イギリス・中国・カナダ・日本の国旗と、first (1st) ~ fourth (4th)と書かれたカードを自由に選んで持ち、友達に出身国と教室をたずねる活動をする。

【文字指導】[Let's Write]では、“I'm Jinho.”と“I'm from Korea.”という文を一度なぞった後、四線の上に再び文を書き写す活動がある。4年生から始まった文字指導だが、6年生では初めて「センテンスの筆写練習」が加わる。

<6年 Lesson 2> “Is This York Street?”

1. 場面や機能：道をたずねる／教える。

2. 表現形式：Where is the toy shop?

— Turn left at the corner. It's behind the hospital.

3. 語彙：post office, corner, behind, near, across, bus stop など

4. 活動：[Activity]では、同じ地図にそれぞれ描かれている建物と描かれていない建物がある2枚の地図をペアで持ち、たずね合ってお互いの地図を完成させるinformation gap活動を行わせる。スタートの位置は描かれており、一方が“Where is the post office?”とたずねると、もう一方は自分の地図を見ながら、次のような対話を行なう。

S1：Where is the post office?

S2：Go straight and turn right at the bus stop. Go straight. It's on High Street. It's near the toy shop.

S1：Thank you.

S2：You're welcome.

場所が特定できれば、その場所に“post office”など、綴りを書き入れる。

【文字指導】[Let's Read]では、A：Where is the hospital? B：Go straight and turn right at the corner. It's behind the school.などの「対話文を読み」、絵の中からその建物を選ぶ活動がある。[Let's Write]では、“My school is behind the bank.”と“The post office is near the bus stop.”の2文をなぞり、次に書き写す。

<6年 Lesson 3> “I Like Spring.”

1. 場面や機能：季節について話す。

2. 表現形式：Do you like spring?

— Yes. It's warm. I feel good.

3. 語彙：spring, summer, fall, winter, warm, cool, hot, cold など

4. 活動：[Review]では、友達からヒントをもらって、相手の好きな季節を当てて活動を行う。例。A：It's cold, but we have Christmas Day.

B：Do you like winter?

A : That's right. など。

【文字指導】 [Let's Read] には、 It's warm → in spring. など、意味を考えて左右の語句を線で結び文を完成させる活動がある。 [Let's Write] には、“I like summer.” と “I don't like winter.” の 2 文をなぞり、書き写す活動がある。また、I like _____ . It's _____ . I don't like _____ . It's _____ . の空所に既習の単語を書き入れて文を完成する「自己表現としてのライティング活動」が初出となる。

< 6 年 Lesson 4 > “When Is Your Birthday?”

1. 場面や機能：誕生日をたずねる／答える。
2. 表現形式：When is your birthday?
— My birthday is May 10th. When is yours?”
3. 語彙：January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, month など
4. 活動：[Activity] では、友達に誕生日はいつかたずね、クラスで何月生まれが多いか調査する活動を行う。

【文字指導】 [Let's Read] には、A : When is your birthday? B : It's April second. When is yours? A : It's June 7th. という対話文を読んで、カレンダーの誕生日に○印を付ける活動がある。 [Let's Write] には、“My birthday is May 7th.” と “Children's Day is May 5th.” の 2 文をなぞり、次に書き写す活動、さらに、“My birthday is in _____.” “My father's / mother's birthday is in _____.” のように空欄に誕生日を書き入れて文を完成する「自己表現と家族紹介のライティング」が用意されている。ただし、月の綴りは長く難しいものが多いので、12か月の綴りを選択肢として与え、必ずしも難度の高い綴りを覚えることを児童に強要はしていない。小学生に過度の学習負担を与えない配慮が随所に見られる。

< 6 年 Lesson 5 > “May I Help You?”

1. 場面や機能：買い物をする。

2. 表現形式：

May I help you? — Yes, please.

How much is this? — It's \$20.

Oh, no! Too expensive.

OK. I'll take it.

3. 語彙：

expensive, dollars, toy helicopter など

4. 活動：[Let's Play] (2) では、巻末付録を切り抜いて作る toy helicopter, toy car, ball, doll, pencil case, flower の絵と綴りが書かれたサイコロと \$10 など値段の書かれたサイコロ、同じく巻末付録のおもちゃのドル紙幣を使って、グループで買い物のスキットを演じる。

【文字指導】 [Let's Read] には、4 コマ漫画を見て、客と店員のセリフ (1. May I help you? 2. How much is this soccer ball? 3. It's \$6. 4. OK. I'll take it.) を選ばせる活動がある。 [Let's Write] では、“The toy car is ten dollars.” “The soccer ball is twenty dollars.” と “It's too expensive.” の 3 文をなぞり、書き写す活動、陳列棚に並べられた値札付きの商品の絵を見て、
The book is three dollars.

The toy car is _____ dollars.

_____ dollars.

と、1 語補充から 1 センテンスのライティングまで、段階的に拡充させている。

< 6 年 Lesson 6 >

“Can I Have Some Water?”

1. 場面や機能：飲みものや食べものを求める。
2. 表現形式：
I'm thirsty. Can I have some water, please?
— Sure, here you are.”
3. 語彙：thirsty, hungry, water, orange juice, milk, hamburger, sandwich など
4. 活動：[Activity] では、空腹でピザを食べたがっている子どもの絵カード (A) を持つ児童と、食べ物／飲み物の絵と綴り字カード (B) を持つ児童とに分かれ、カード (A) を出した児童が、

“I’m hungry. Can I have a pizza, please?” と頼んだら、カード(B)を持つ児童が “Sure, here you are.” と自分の持つ当該カードを差し出す。

【文字指導】 [Let’s Read] には、I’m thirsty. と Can I have some milk / water, orange juice? を、I’m hungry. と Can I have some hamburgers / sandwiches? を線で結ぶ活動がある。[Let’s Write] では、“I’m hungry. I want some chicken.” と “I’m thirsty. I want some milk.” という意味的に連続してつながる2文（最小単位のdiscourse）をなぞり、次いで書き写す活動がある。また、“I’m hungry. I want _____.” “I’m _____, I want some water.” などの穴埋めライティング、それを応用した「**継続する2文による自己表現ライティング**」が与えられる。

<6年 Lesson 7> “My Father Is a Pilot.”

1. 場面や機能：
家族の職業と将来の夢について話す。
2. 表現形式：
This is my father. He is a pilot.
I want to be a police officer.
3. 語彙： teacher, nurse, pianist, doctor, pilot, cook, singer, police officer, bus driver, work, want to ～ など
4. 活動： [Let’s Play] (3)では、両親と兄弟（または叔父や叔母）の絵が描かれた4枚のカードに実際に自分の家族の職業を書き、友達の家がどんな職業なのかをたずね合う。

【文字指導】 [Let’s Write] では、“My father is a cook.” “My mother is a teacher.” “I want to be a pilot.” という「**1つの話題に関する連続する3文を書き写す**」活動を行わせる。さらに絵をヒントに、My grandfather is a cook. My father is a pilot. My brother wants to be a teacher. My sister wants to be a police officer. の文を書かせる活動が続く。

<6年 Lesson 8>

“What Will You Do This Summer?”

1. 場面や機能： 夏休みの予定をたずねる。
2. 表現形式：
What will you do this summer?
— I will visit my uncle in London.
3. 語彙： will, camp, ride, afternoon など
4. 活動： [Let’s Play] (3)の夏休みの予定をたずね合うペアワークでは、巻末付録のI will visit my uncle [go camping / swimming, study English, read books, play soccer / baseball, ride my bike, play the piano]. の9枚の「**センテンス・カード**」を切り取って使用する。[Activity] では、夏休みの実際の予定を友達にたずねて回り、調査する活動を行う。

【文字指導】 [Let’s Write] では、“I will visit my uncle in London.” “I will play soccer this afternoon.” “I will ride my bike this Sunday.” の3文をなぞり、書き写す活動を行わせる。さらにサッカーをする、ピアノを弾くなど、いくつかの絵の中から自分の好きなことを選び “I will play the piano.” などの1文を書かせる活動が続く。書き出しは “I will _____.” が与えられているだけで、書く活動における児童の自由度がかなり上がってきている。

<6年 Lesson 9>

“How Was Your Vacation?”

1. 場面や機能：
夏休みはどうだったか感想をたずねる。
2. 表現形式： How was your vacation?
— It was great. I went to the museum.
3. 語彙： was, great, fun, holiday, vacation, computer games, cousin など
4. 活動：

【文字指導】 [Let’s play] (2)では、巻末の絵カードを見ながら、I played computer games.などの文を言い、絵カード裏面の英文を見て確認させる。[Let’s Write] では、次の日記の「**文章**」を書き写させる。

Monday, July 7th

It was a holiday today. I visited my grandparents.
I played basketball with my cousins. It was fun.

「数文のまとまりある文章 (discourse) を筆写する活動」はここが初出である。Lesson 8 までに見られた薄く印刷された「モデル文をなぞる練習」はこれ以降なくなり、「モデルを見て、いきなり筆写する」ことが児童に要求される。さらに、この後「絵日記」の絵を見ながら、空所を補充して日記文を完成する練習が続く。

< 6年 Lesson 10 > “I’m Stronger Than You.”

1. 場面や機能：背の高さや年齢を比べる。
2. 表現形式：My brother is very tall.
He is taller than my father. He is stronger than my father, too.
3. 語彙：taller, stronger, older, faster, than など
4. 活動：[Activity] では、_____ is stronger than _____ . や _____ is taller than _____ . などの空欄を自由に埋めて文を作り、口頭で発表させる。

【文字指導】[Let’s Write] には、“Tom is my friend. He is very kind. He is taller than me. He is faster than me, too.” という友達紹介の文章を書き写す活動がある。また、絵をヒントに、例えば、The cat is stronger than the mouse. The tiger is stronger than the cat. の「下線部分を自らの判断で書き加えて文を完成させる活動」がある。

< 6年 Lesson 11 >

“What Do You Want to Do?”

1. 場面や機能：したいことを表現する。
2. 表現形式：
Tomorrow is my mother’s birthday. I want to cook for Mom. My brother will make a card. We will have a good time.
3. 語彙：
tomorrow, Mom, invite, party など

4. 活動：[Let’s Play] (3) では、ビンゴゲームを行う。9マスに “I want to _____ .” に続く動詞(句)を書き入れ、先生が読み上げた文と同じならば印を入れていく。[Review] では、“What / want / do you / to do?”, “play / want to / I / the piano.” とばらばらに配置された語句を組み合わせて、2つの文を作る活動を行わせ、児童に「語順」を意識させている。

【文字指導】[Let’s Write] には、“What do you want to do?” の質問に続いて、例にならってヒントの絵だけを見ながら、“I want to sing [swim / play the piano].” の3つの文を自分で書かせる活動がある。「**センテンスを独力で書かせる活動**」はここが初出である。

< 6年 Lesson 12 >

“Will You Help Me, Please?”

1. 場面や機能：依頼する。承諾／拒絶する。
2. 表現形式：
I want to clean the living room. Will you help me?
— Sorry, I can’t. I’m busy now.
I must do my homework. Will you help me with my homework? — No problem.
3. 語彙：
help, sorry, busy, sure, No problem. など
4. 活動：[Let’s Play] (3) では、巻末絵カードを使って、困っている状況のカードを引いた児童が援助を依頼し、もう一方はそれに答えるペア活動を行う。

【文字指導】[Let’s Write] には、A : I want to make sandwiches. Will _____ ?
B : _____ . A : Thank you
B : You’re welcome. という対話文の穴埋め活動があり、I [a robot / to make / want]. Will [with my homework / help / me / you]? の[]内の語句を並べ替えて文を作らせる活動が続く。6年生では、中学校への橋渡しとして、英文の「語順」を意識させようとしていることが窺われる。

<6年 Lesson 13> “That’s Too Bad.”

1. 場面や機能：体調について話す。
2. 表現形式：
He has a bad cold. — Oh, that’s too bad.
3. 語彙： all day, sick, cold, headache, after school など
4. 活動：

【文字指導】 [Activity] では、与えられたモデル文を読み、それを参考に空所補充形式で「日記」を書く活動を行わせる。

[Let’s Write] では、次の電話での対話文

- A: I can’t _____ school today.
B: Why not?
A: Because I _____. I have a bad cold.
B: That’s _____.

の穴埋めをさせる活動や、語句の整序により対話文を完成させる活動を行わせる。

<6年 Lesson 14>

“Would You Like to Come to My House?”

1. 場面や機能：招待状を書く。
2. 表現形式： I will have a birthday party.
Would you like to come to my house?
— Yes, I’d love to.
3. 語彙：
dear, birthday party, Thanksgiving Day, I’d love to, take off your shoes など
4. 活動： [Let’s Play] (3) では、グループで巻末のセンテンス・カードを単語ごとに切り離し、それを並べ替えて文を再生するゲーム (Strip Sentences) を行う。“This Saturday is my birthday.” や “Come and have some fun.” など6種類のセンテンス・カードは1単語ずつ切り離すと34枚の単語カードとなり、これらを混ぜてグループで文を完成させていく過程で、児童は「語順」を強く意識するはずである。

【文字指導】 [Let’s Write] では、“Sunday, my birthday, birthday party” というキーワードを使って、モデルを参考にしながら穴埋め形式で「招待状」 (invitation card) を書く活動に取り組

ませる。かなり「自由度の高いクリエイティブ・ライティング」になっている。モデルとして以下のカード例が提示されている。

Dear Ann,
Hi! Ann. This Thursday is Thanksgiving Day. I will have a party. Would you like to come to my house?

From Jinho

<6年 Lesson 15> “It’s Time to Go Home.”

1. 場面や機能：
日課を言う。寝る時刻などを伝える。
2. 表現形式：
I go to bed at nine twenty.
It’s nine twenty. It’s time to go to bed.
Don’t play computer games.
3. 語彙：
go / come back home, do the dishes, go away, sleep too much, be late など
4. 活動： [Let’s Play] (2) では、巻末の絵カードを切り取って、グループで「ルーレット遊び」を行う。例えば「勉強をしている絵」の隣には「テレビ禁止マーク」の絵が描かれており、そこに当たった児童は、“It’s time to study. Don’t watch TV.” などの文を言う。

【文字指導】 [Let’s Write] では、「あみだくじ」で、日課を表す絵と時刻をつなぎ、I have breakfast at eight. を例に、I study at four. I watch TV at five. I go to bed at nine. の3つの文を書かせる。さらに、「起床」、「登校」、「給食」、「勉強」、「就寝」の絵を見て、I got up at _____ に続けて、児童自身の日課を「文章で自己表現」させる。

<6年 Lesson 16> “So Long, Everyone!”

1. 場面や機能：
進路や計画について話す。卒業式の日には友達にお祝いの言葉を言い、お別れの手紙を書く。
2. 表現形式：

I'm going back to New York tomorrow.
I'll miss you.

What middle school are you going to?
I'm going to Rose Middle School.

Please say hello to your family.

3. 語彙：

miss you, middle school, good luck, congratulations,
So long. など

4. 活動：[Review] では、下の例のように、実際に友達と卒業を祝い合ったり、お別れの挨拶をするなどの会話を行う。

S1：Congratulations!

S2：Thank you.

S1：What middle school are you going to?

S2：Daehan Middle School.

S1：We're going to the same school.

【文字指導】[Let's Write] では、小学校英語のライティングのまとめとして、モデルとして提示された下の手紙を参考にして、友達に向けて「簡単な手紙を自由に書かせる」活動に取り組ませる。

Dear Andy,

Hello, my name is Lee, Nami. I live in Seoul, Korea. I'm 13 years old. I have one brother. I like playing computer games. I want to know about you. Please write me back.

Nami

4. 日韓の中学校英語教育の内容比較

3章では、韓国の小学校英語教科書の内容をできる限り詳細に紹介してきた。本章では、この教科書を使って、小学校第3学年から4年間、合計204単位時間、「教科としての英語教育」を実施してきた韓国と、「総合的な学習の時間」の中の「国際理解」教育の一環として、統一の目標や教材もなしに各小学校の裁量の下に「英語活動」を実施している日本とでは、中学校英語教育に如何なる差が現れるのだろうか。中学第1学年入門期と第3学年末の教科書内容につ

いて、①「教科書学習の中核を成す本文の質と量」、および、②「コミュニケーション能力育成の到達目標となる代表的な活動」を取り上げて比較分析するとともに、③「日韓教科書の第1～第3学年の言語材料配列（文法指導シラバス）」についても比較検討を試みたい。

分析対象とする教科書は、韓国の教科書としては、現在発行されている6種類の中学校検定教科書の中から、Shinほか(2005)、*Middle School English 1~3* (キョハク社)を、また、日本の教科書については、現行版6社の文部科学省検定済教科書の中から、最も採択部数の多い、笠島ほか(2006)、*New Horizon English Course 1~3* (東京書籍)を取り上げる。

4.1. 韓国の中学校教科書の構成

韓国の教科書は、各課の半数ページ以上に渡り、フルカラーのイラストや写真がある。しかし、学年が上がるにつれて英文の分量が増え、イラストや写真の分量は減っていく。小学校教科書ではイラストを見ればどんなことを扱うのか、活動では何をするのかおよその察しがついたのに比べ、中学校教科書では挿絵程度の役割になっており、活動等の指示文はすべてハンゲルで記されている。



〔韓国の中学校教科書〕

1年生では、各課とも18ページ (Lesson12のみ20ページ) が配当され、計12課から成る。

主な登場人物はGi-ho, Kristy, Mina, Steve, Yun-ju, Mr. Bakerなどだが、課によって登場人物が異なり、日本の教科書のように主人公を設定して学年を通してストーリーが展開することはない。2年生では、各課とも18ページ (Lesson 11のみ20ページ) が配当され計11課から、3年生では、各課に20～24ページを配当、12課から成る。各課の構成は次の通りである。

<中1・2> Listen and Think, Listen and Do, Let's Talk(1),(2), DIALOGUE, Work Together, Read and Think, Read and Do, Let's Write, Language Points, Do It Yourself, Let's Make Sure, One More Step, Have Fun

<中3> Let's Think Back, Let's Listen, Listen and Respond, Listen and Talk, Let's Speak, Before You Read, Let's Read, After You Read (1),(2), Let's Write, Communication Activity, Take a Break, Review, I Can Do It, On Your Own

日本の中学校教科書の多くが、1課3パート(各パート2ページ)構成で、ドリルや活動ページを含めて7～8ページ(補充の言語活動、コラムや文法のまとめのページなどを除く)の配当であるのに比べて、韓国教科書は、小学校教科書と同様、多分にコース・ブック的色彩が強い。

4.2. 中学校第1学年入門期の内容比較

日本と韓国の中学校1年生用教科書第1課から、「理解 (recognition) の能力」の到達目標となる本文 (main text) と、「表現 (production) の能力」の到達目標となる活動例を、それぞれ取り出して比較検討を加える。

4.2.1. Recognitionの到達目標となる本文

日韓の教科書ともに、取り上げられている場面は、中学校入学後の学校生活で、英語のALTの先生と初めて出会う場面であり、話題は両者に共通している。

① 日本の教科書内容 (中1・Unit 1)

第1課 (Unit 1, 4ページ配当) のPart 1～3の本文として掲げられた対話文を掲載する。各パートの本文は3～5文で、いずれもページの大半を占めるイラストの人物からの吹き出しに入っているが、ここでは、誰のセリフかわかるように、Emi: など発言者名を追加して示す。

「ようこそ、グリーン先生」

登校中の絵美は、校門の近くで外国人の女性を見つけます。

----- [Part 1] -----

Emi : Good morning.

Ms. Green : Good morning.

Emi : I'm Emi.

Ms. Green : I'm Ann Green.

----- [Part 2] -----

Shin : Are you Ms. Green?

Ms. Green : Yes, I am.

Shin : I'm Shin.

Ms. Green : Nice to meet you.

Shin : Nice to meet you, too.

----- [Part 3] -----

Shin : Are you from America?

Ms. Green : No, I'm not. I'm from Canada.

3パートの総語数は37語であり、3.1.2.で見た韓国の小学校3年生の学習開始時期に相当するレベルであり、12～13歳の中学校1年生にはあまりにも内容が幼すぎると思われるが、現行制度では致し方ないことで、他の5社の教科書も同様の内容である。

一方、側注に「新語」(覚えたい語句)として掲げられた単語は、good, morning, I, am, you, are, yes, no 以下、Ann Green, America, Canadaなどの固有名詞や縮約形のI'mも含めて21語、慣用表現としては、Good morning. Nice to meet you. が挙げられている。即ちすべての語句が初出であり、初出と同時に、発音とともに綴り字まで覚えるべき語句となる。

日本語とは異なる文字体系に接して戸惑い、

単語の綴りが読めない、書けない、覚えられない、これが日本の中学生の「英語学習の第一のつまずき」となる。入門期の小学校3年生は音声のみ、文字については4年生から3年間かけて継続的・段階的に習熟させるべく配慮している韓国の小学校英語の入門期教育との大きな違いが、中学校に入学し、英語学習を始めた直後から現れてくることとなる。

② 韓国の教科書内容 (中1・Lesson 1)

第1課 (18ページ配当) の中核的教材となる [Read and Think] の対話文を取り上げる。

まず、[Before Reading] として、ハングル文字で、「新たに出会った先生や友達に自己紹介する」という対話の場面設定が記されている。

“Welcome to Middle School”

Mrs. Kim : Good morning, everyone! Welcome to middle school! I'm your English teacher. My name is Kim Mi-ran. And this is Mr. Baker. He is your English teacher, too.

Mr. Baker : Hi, glad to meet you. My name is Edward Baker. I am from Chicago in the United States. I'm new here.

Mrs. Kim : Thank you, Mr. Baker. Mr. Baker is going to help us with English every Monday. Now introduce yourselves, please.

Yun-ju : Hi. I'm Bak Yun-ju. Yun-ju is my first name and Bak is my last name. I'm 14 years old. I'm from Busan. I live with my parents and sister. I like music very much. Glad to meet you all.

見開き2ページの対話文の末尾に、概要理解を確認する次の2つの質問が掲載されている。

Q. ① Where is Mr. Baker from?

② What does Yun-ju like?

Mrs. Kim: Mr. Baker: などの人名を除き、上記対話文の総語数は106語である。前掲の日本の教科書対話文の37語の3倍近く、対話内容にも雲泥の差がある。この対話文は、韓国の中学1

年生にとって、現実的内容と言え、生徒達の発達段階にも合致したものと言えよう。

脚注に「新語」として取り上げられている単語は、実に middle, introduce, yourself の3語のみである。morning, teacher, name, Monday などの名詞, I, you, he, my, your, us などの代名詞, be 動詞はもちろんのこと, help, live, like という一般動詞も、すべて小学校英語で慣れ親しんできた語彙であり、すべてここでは既習語と見なされている。脚注には、熟語・慣用表現として、welcome to ~, I'm new here. be going to ~, help us with English がハングル訳付で挙げられている。「語彙指導の小中連携」が実現していると言えよう。

文中に見られる I'm Bak Yun-ju. Yun-ju is my first name and Bak is my last name. は、民族のアイデンティティを大切にする韓国の教科書らしい表現である。近年、日本の教科書でも、I'm Tanaka Kumi. のように名前を「姓+名」の順に言う文が多く見られるようになったが、この文単独では、日本人の名前について知識の乏しい欧米人に姓名逆に誤解される恐れもある。残念ながら日本の教科書では、I am ~. や My name is ~. が初出の課では、Kumi is my first [given] name and Tanaka is my last [family] name. のような文は登場しない。

Mr. Baker is going to help us with English every Monday. は日本では通常中学第2学年で目標文として学習する文構造であるが、韓国では小学校6年生最後の Lesson 16 で既習である。小中学校で同じ構造の様々な文に繰り返し触れさせ、スパイラルにその習得を図っており、ここにも小中連携シラバスの強みを見出すことができる。

4.2.2. Production の到達目標となる活動例

次にスピーキングやライティングの表現の到達目標として設定されている活動例を比較してみたい。

① 日本の教科書内容 (中1・Unit 1)

4ページ構成の本課では、スピーキング活動

としては、I'm _____. と自分の名前を言う 1 文レベルの自己紹介や、人物の絵と名前を見て、Are you ~? - Yes, I am. の対話、地図と国名を見て、Are you from America? - No, I'm not. の対話など、語の置換え (substitution) による one-turn の対話練習に留まっている。この段階では、生徒に発話内容の選択 (choice) の余地はまだまだなく、言語活動以前の最も基礎的な言語操作練習 (manipulation drill) である。

② 韓国の教科書内容 (中 1・Lesson 1)

18 ページ構成の第 1 課の中には、様々なスピーキング、ライティング活動が満載されているが、そのいくつかを示す。

【例 1】ライティング活動 [Let's Make Sure]: ミンジがインターネットでチャットをしています。下線部に文を書き入れよう。

M: My name is Min-ji.
What's your name?
 S: I'm Sarah.
 M: I'm from Korea.
Where are you from?
 S: I'm from New Zealand.
 M: Glad to meet you, Sarah.
 S: Glad to meet you, too.

【例 2】スピーキング活動 [One More Step]: 中学生になり新たに仲間になった友達に、次のことをたずねて表を完成させよう。

About your new friend

Name	
Age	
Hometown	
Brothers & Sisters	
I like ...	

上の内容を報告し、クラスの友達に仲間を紹介してみよう。(紹介文は、This is my friend, _____ . で書き始める。)

【例 3】スピーキング活動 [Think More, Talk More]: ペアで感想をたずねあい、自由に答えよう。

A: How do you like your new classmates?
 B: _____
 How about you?
 A: _____

【例 4】ゲーム的スピーキング活動 [Have Fun]: 出題者に自由に質問をして、どの有名人か当ててみよう。

選択肢として、Pablo Picasso, Shakespeare, Mandela, Pele, Pavarotti, Beethoven, Bill Gate, Albert Einstein, Napoleon, Mother Teresa, Yeong-ju Jang (韓国人の女性バイオリニスト) の写真や肖像画が与えられ、生徒は自分の好きな人物を一人選び、他の生徒達は教科書に示された次の例を参考に自発的に質問し、人物を特定する。

Students: Where are you from?
 Student A (出題者): I'm from Spain.
 Ss: What are you?
 SA: I'm a painter.
 Ss: Are you Pablo Picasso?
 SA: Right.

いずれも日本の Unit 1 のドリル的な活動に比べると思考を伴う、より meaningful な活動であり、活動例 2~4 は、生徒にとって自由度の高い、より creative な活動である。

4.3. 中学校第 3 学年末の到達度比較

次に日韓の中学校 3 年生用の教科書の最終課を比較してみたい。これは、換言すれば、日韓両国の英語教育の義務教育最終段階での到達度比較となる。

4.3.1. Recognition の到達目標となる本文

①日本の教科書内容 (中 3・Unit 6)

最終課である Unit 6 (Listening Plus, 文法の

まとめ, Speaking Plus, Multi Plus などの補充ページを除き, 本文 4 ページ+要約文完成活動 1 ページを配当) の本文を抜き出し検討する。本文の各パートの冒頭には, 状況説明の日本語のリード文が入り, パート 1, 3, 4 では, reading point を事前に与えるための Q が示されている。

“20th Century Greats”

[Part 1] 英語の授業で課題が出されました。

Q: どんな課題が出されたのでしょうか。

This is a book I bought in the United States. These are some of the people you can find in it. Choose one and write a report about her or him

マザー・テレサ, 手塚治虫, ベレ, ヘレン・ケラー, ジョン・レノンの写真

[Part 2] 絵美のグループは次の人物を選びましたが, 名前がわかりません。そこで, グリーン先生にたずねることにしました。

Emi : Excuse me. May I ask you a question?

Ms. Green : Sure.

Emi : Do you know who this is?

Ms. Green : Yes. That's Rachel Carson. She's the scientist who wrote *Silent Spring*.

Emi : *Silent Spring*?

Ms. Green : Right. It's a book about environmental pollution.

[Part 3] 絵美は, 英語の人物事典を調べます。

Q: カーソンはどんな業績を残したのでしょうか。

CARSON, Rachel Louis

American scientist 1907-64

Carson was a scientist who wrote about the danger of farm chemicals. Few people worried about it in the 1950's, but she did.

In 1962 she finished her book *Silent Spring*. "Silent spring" means "a spring without life."

The book became a best-seller. It was a book that changed our view of nature.

[Part 4] 絵美はカーソンの伝記から, いくつかの情報を書き出します。

Q: カーソンはどんな生涯を送ったのでしょうか。

・ Carson was born on a farm. She loved nature all her life. She especially loved the sea.

・ When she was a child, she like to write. Later she wanted to be a writer or a scientist. She became both.

・ She had cancer while she was writing *Silent Spring*. But she worked very hard and finished it.

・ Some other books that she wrote are *The Sea Around Us* and *The Sense of Wonder*.

 Part 1~4 の本文総語数は 190 語である。新語は, century, report, scientist, wrote, environmental, pollution, danger, chemical, silent, spring, best-seller, nature, especially, writer, cancer の 15 語 (固有名詞を除く) を数える。

本課で取り上げられている文法事項は, 接触節 (contact clause), および, 関係代名詞を用いた文による後置修飾構造で, パートごとに本文から抜き出すと, ① This is the book I bought in the United States. (接触節) ② She's the scientist who wrote *Silent Spring*. (主格の関係代名詞 who) ③ It was a book that [which] changed our view of nature. (主格の関係代名詞 that / which) ④ Some other books that she wrote are *The Sea Around Us* and *The Sense of Wonder*. (目的格の関係代名詞 that) が目標文である。

読後の post-reading activity としては, レーチェル・カーソンの生涯についての要約文の 8 箇所空所に単語を補い, レポートを完成して発表する活動が続く。

なお, 最終ユニットの本文は 190 語であるが, そのあとには, [Let's Read] として 2 つのリーディング教材が用意されており, 最終のリーディング教材は, "The Fall of Freddie the Leaf"

〔葉っぱのフレディ〕で、各ページの上半分
に美しい写実的なイラストを配した6ページ、
総語数422語の心揺さぶる物語がある。ただし、
英語週3時間体制の現在、これら巻末のリーデ
ィング教材は、一般に「付録読み物」として扱
われており、授業で十分に扱われることは少な
いのが実情である。

② 韓国の教科書内容 (中3・Lesson 12)

最終課である Lesson 12 (20ページ配当) の中
学校最後のリーディング教材である [Let's Read]
“Presidents' Day in the United States” を取り上げ
る。米国大統領 George Washington と Abraham
Lincoln に関する教材である。

教科書では、[Let's Read] に至る pre-reading
activity として、次の[A]~[C]の3つの活動が1
ページを割いて提供されている。

[Before You Read]

[A] Think about the following two presidents.

2人のアメリカ大統領に関する年表を見て人物
を比較しよう。

Year	George Washington
in 1732	born — son of a rich planter
around 1775	leader of the army
around 1789	president — served two successive terms

Year	Abraham Lincoln
in 1809	born — uneducated and poor parents
in 1860	president — to lead the Civil War
in 1864	reelected president — freed all slaves

これは題材に関する先駆知識 (schema) を与
え、後に控えた本文リーディングへのレディネ
スを作るための読む活動である。

[B] Reading Guide

Aで本文を部分読みした後、2人の大統領を
描写した表現を以下の語群から探して、それぞ
れ Washington, Lincoln の名前が書かれた表に記
入する。

<語群>

poor, rich, the father of the U.S., serious mistakes,
noble, great moral strength, two successive terms,
wise, courageous

2人の大統領を表すキーワードを書き写すこ
とにより題材への意識を高め、本文リーディ
ングへのレディネスを一層高める活動である。

[C] How about you?

1. Who is the president you admire the most in Korea? Why?
2. Who is the president you admire the most in the United States? Why?
3. What do you think of George Washington and Abraham Lincoln?

題材への生徒の興味関心を高める creativity の
高い活動である。2や3の質問については、[Let's
Read]の本文の読後に、生徒の変容を把握すべ
く再度たずねてみたい質問である。

以上の pre-reading activity に引き続いて、いよ
いよ [Let's Read] の本文リーディングに取り組
む。以下にその全文を掲載するが、本文は3ペ
ージに渡り、イラストや余白は少なく、文字が
ぎっしりと詰まった感じを与え、日本の高校用
リーディング教科書さながらである。各ページ
の冒頭に reading points を示す質問が1問ずつ提
示されている。

“Presidents' Day in the United States”

----- [Part 1] -----

Q: What did George Washington do for his country?

George Washington, who is commonly called the
father of the United States, was born in 1732. The
son of a rich planter, he was privately educated and

trained to be a surveyor. But as an officer in the French and Indian Wars, he became interested in military leadership. His military career during the wars was not outstanding. In fact, he was twice responsible for making serious mistakes.

By 1775, relations with England had become so bad that the colonists were ready to fight for their independence. Washington was named leader of the army. His job was very difficult. His army was small, and poorly fed and clothed. The men suffered greatly during the cold winters. He had to fight the war with poorly equipped soldiers who were not trained. He never asked for and never received any salary for his job. In fact, he often spent his own money to buy clothing for his men and spend help to their families. Washington brought to the battlefield great military ability and a noble character.

In 1789, George Washington was chosen to be the first president of the United States. He served two successive terms successfully.

----- [Part 2] -----

Q : *What did Abraham Lincoln do for his country?*

Abraham Lincoln was born on February 12, 1809 in a log cabin in Kentucky. His parents were uneducated and poor. Although Lincoln eventually became a lawyer, he had very little formal education. But he did have a great mind and great moral strength. He had the courage to do what he felt was right.

Before he was elected president, Americans suffered from troubles inside the country. In the southern states, blacks who had been brought from Africa were used as slaves. Northerners, however, didn't accept slavery. In order to keep their rights to keep slaves, the Southern leaders wanted to form a separate nation.

In 1858, Lincoln said, "A house divided against itself cannot stand. I believe this government cannot

endure for long if it is half slave and half free." In 1860, when Lincoln was elected president, the United States was, truly, a house divided. He chose to lead the country into the Civil War rather than allow the South to separate from the North.

The Civil War began in 1861, and the battle between the North and the South was over in 1865. During the war, Lincoln declared all slaves in the southern states to be free, and was reelected president in 1864. After the war, the law freed all slaves in the nation.

----- [Part 3] -----

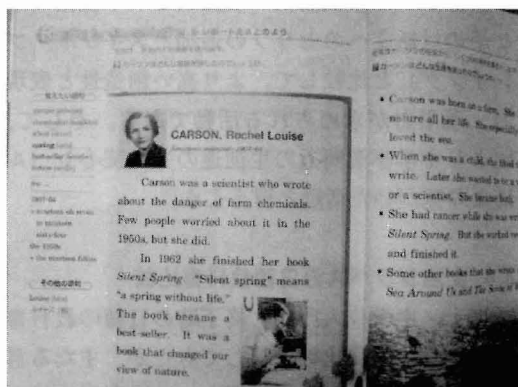
Q : *Why are Washington and Lincoln American heroes?*

George Washington and Abraham Lincoln lived during important periods in American history. Both met the challenge of their times with great courage and wisdom. Washington fought the British army to win independence from England. Less than 100 years later, Lincoln declared war on the southern states to keep the nation from dividing in two. Both Washington and Lincoln are American heroes who represent the ideals which are much admired by the nation.

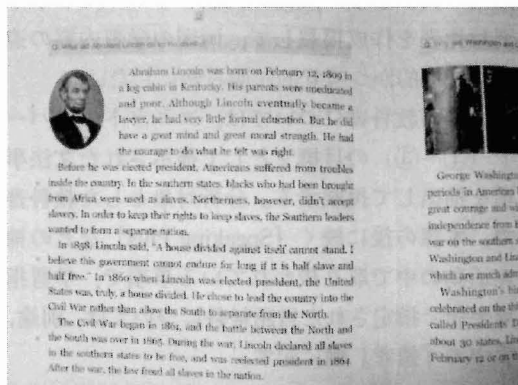
Washington's birthday is an official holiday in the U.S.A. It is celebrated on the third Monday in February. In some states, this date is called Presidents' Day and honors both Washington and Lincoln. In about 30 states, Lincoln's birthday is an official holiday, celebrated on February 12 or on the first or third Monday in February.

[Let's Read] のQを含む本文総語数は560語である。これは日本の中3教科書の最終Unit本文の190語の3倍近い分量に相当し、巻末の補充リーディング教材の422語（日本の中学校教科書6社の第3学年最後のリーディング教材の平均語数は462語）よりもなお語数が多い。

しかし、新語は、survey, relation, colonist, independence, successive, log, cabin, formal, slave, slavery, endure, challenge の12語に留まっている。



〔日本の中3教科書の字数イメージ〕



〔韓国の中3教科書の字数イメージ〕

熟語・慣用表現としては、be responsible for ~, in order to ~, less than ~ の3つが掲載されている。

本課の目標文構造は、動詞の強調 (He *did* have a great mind ...) と、日本の教科書と同じ、関係代名詞節である。しかし、本文に見られる関係代名詞節の用法は、次の通り、日本の用例よりもはるかに難度の高いものとなっている。

- ① George Washington, who is commonly called the father of the United States, was born in 1732. (継続用法の関係代名詞節の挿入)
- ② He had the courage to do what he felt was right. (先行詞を含む関係代名詞 what)
- ③ In the southern states, blacks who had been brought from Africa were used as slaves. (過去完

了の受身文を伴う関係代名詞節)

④ Both Washington and Lincoln are American heroes who represent the ideals which are much admired by the nation. (2つの関係代名詞節による二重修飾)

これらの用法はすべて、日本では高等学校で学習する文法事項である。

読後の post-reading activity としては、[After You Read] (1 ページ) に本文概要理解を確認する適語選択、および、適語補充による要約文の完成、要約文中の動詞の語形変化による文法確認の問題が続く。さらに、1 文レベルから、まとまりある自由作文までのライティング活動を通して、本文で学習した重要表現や文法事項の定着を図る [Let's Write] (2 ページ) や生徒同士のインタラクションを行なわせる [Communication Activity] (1 ページ) が配置され、最後に確認問題付きの [文法のまとめ], [Review] (1 ページ), 聞き、読み、話し、書く 4 技能の言語活動を課す [I Can Do It] (2 ページ), [On Your Own] では、語彙定着を図る「ワード・サーチ」(1 ページ) が続く。

4.3.2. Production の到達目標となる活動例

① 日本の教科書内容 (中3・Unit 6)

正規の Unit に組み込まれた、4 技能を統合した最後の統合的言語活動 (integrated activity) である [Multi Plus 4] : 「わたしのスキット作り」(見開き 2 ページ) を抽出して検討する。左ページには、「英語の教科書とノートを机に置いて、漫画を読んで笑っている少年ケン」, 「お茶とケーキを持って入室した母親に、漫画をノートの間に挟んで隠し、教科書を上下さかさまに持って慌てているケン」の連続する 2 コマのイラストがある。Step 1 は、このコマ絵を見ながら、4 つの英文を聞き、内容の正誤を判定し、○×を記入するリスニングである。Step 2 は、対話文を読んで、脈絡から判断し、A~D の中から適文を選んで空所に補充するリーディング活動である。

Ken : Just a minute.
 Mother : Here's some cake. Are you studying hard?
 Ken : ① _____
 Mother : Really? What subject are you studying?
 Ken : ② _____
 Mother : What's that in your notebook?

- A. Yes, of course.
- B. I'm writing a letter.
- C. No, I'm reading a comic.
- D. I'm studying Japanese ... I mean, English.

Step 3では、この対話文のあとに、KenとMotherのセリフを各1～2文ペアで自由に考えて書かせるライティング活動。Step 4は、完成した対話に動作をつけてスキットを演じるスピーキング活動である。

② 韓国の教科書内容 (中3・Lesson 12)

[On Your Own] の活動で、中学3年生の最後の活動として、例にならって、下線部を自由に変えて、自分たちの最も尊敬する人物を、その人の紹介や尊敬する理由もつけて書き、友だちと話し合い、その結果を表に記録して発表する活動が設定されている。

A : Who do you admire most in the world?
 B : I really admire Helen Keller.
 A : Why do you admire her so much?
 B : Don't you know / remember reading that she was disabled?
 A : I remember it well.
 B : Even though she was disabled, she showed great courage to get over her problems in life.

[活動記録表]

尊敬する人物	特徴	理由

モデル文と対話のフォーマットが与えられているとはいえ、生徒自身が尊敬する人物の人となり述べ、その理由を説明するのは、先に示した日本の中学校最後の活動 (2コマ漫画の母と子の対話文へのセリフの追加とスキット・プレイング) と比較して、より高い創造性と表現力、運用力が求められる活動である。そして、何より中学卒業間近の生徒達の知的関心レベルにより近づいた活動と言えよう。

4.4. 文法シラバスの日韓教科書比較

以上、中学校入門期と終了時の日韓の教科書内容を具体的に比較分析してきたが、主たる言語材料として中学校で学習し、その習得を図る文型・文法事項の配列 (文法シラバス) の学年別対比表を作成掲載して、両国の学習内容の違いを総括的かつ視覚的に明らかにしたい。

日本の教科書については、ユニットの各パート (①～③) の目標文として提示された文法事項を抽出して掲載する。分析対象とした教科書で、本課の後に続く [Speaking Plus] などの補充活動の中で取り扱われている事項で、学習指導要領で指定された言語材料については、別途、表中の「備考」欄に記す。

韓国の教科書については、各レッスンの目標文法事項を提示する [Language Points] の中の [Structure] の項に示された文や文法事項を抽出して対比する。ただし、[Structure] の項には取り上げられていないが、日本の中学校・高等学校の教科書では通常各レッスンの目標文として取り扱われる文法事項が、本文や活動中に現れている場合には、「備考」欄にそれを記すこととする。なお、日本の学習指導要領で、高等学校で学習することになっている文型・文法事項には表中で★印を付すこととする。

文法シラバスの日韓教科書比較表（中学校第1学年）		
課	韓国の教科書 (<i>Middle School English</i>)	日本の教科書 (<i>New Horizon</i>)
韓日 中1 L. 1	① be from ~ I'm from Chicago. Are you from Canada? Where are you from? Where is he from? ② glad to-不定詞 （副詞的用法：原因） I'm glad to meet you. I'm glad to go with you. I'm happy to hear the news.	① I am Emi. ② You are Ms. Green. Are you Ms. Green? - Yes, I am. ③ Are you from America? - No, I am not.
備考	・韓国教科書（以下，K）では，目標文として掲載されていないが，一般動詞（肯定・否定・疑問），様々な特別疑問文（How do you like your new school?）も登場する。	
韓日 中1 L. 2	① want to-不定詞 （名詞的用法） I want to be a pilot. He wants to go with you. What do you want to do? ② S+V (look)+C （形容詞） They look happy . You look tired . He looks handsome .	① This is my country. That is my country. ② Is this a school? - Yes, it is. / No, it isn't. It is a hospital. ③ 三人称代名詞 This is Mike. He is my friend. This is Ms. Green. She is our teacher.
備考	・Kでは，一般動詞の三単現（肯定・否定・疑問），WhatやWhoを使った一般動詞の特別疑問文も本文中に登場する。e.g. What does Mike's sister want to be?	
韓日 中1 L. 3	① There be 構文 There are thirty-five students in my class. There is a book on the desk. How many students are there in your class? ② S+V (make, buy など)+O+for B Yun-ju's father made a kite for her. My mother bought a doll for my sister. (cf. Yun-ju's father gave a kite to her.)	① 一般動詞 (S+V+O) [主語は一，二人称] I like music. ② Do you play the piano? - Yes, I do. / No, I do not. ③ I do not [don't] have a car.
備考	・Kでは，助動詞canを使った許可を求める表現（Can I see them?），be動詞と不規則動詞を含む一般動詞の過去形（There were two rabbits in the box.）も頻出する。	
韓日 中1 L. 4	① 進行形 (be+ ~ing) …近接未来を含む What are you doing now? We're having a pizza party on Friday. The new computer class is opening next Monday. ② 不規則動詞 win-won I hope you can win . We won the baseball game yesterday.	① 疑問詞whatの特別疑問文 What is this? - It is a bird. ② 形容詞の叙述用法 English is interesting . English is not easy . ③ 一般動詞の特別疑問文 What do you have for breakfast? - I have rice.

備考	<p>・Kでは、助動詞mayを使った許可表現、When, How longを使った一般動詞の特別疑問文も本文中に登場する。e.g. May I have a message?</p> <p>・日本の教科書（以下、J）の補充ページ（“Speaking Plus”）では、Excuse me. Pardon? Thank you. — You’re welcome. の慣用表現を学習する。</p>	
韓日 中 1 L. 5	<p>① Which+名詞の特別疑問文 Which model do you like? Which color do you want, blue or yellow? (cf. Which do you want?)</p> <p>② 形容詞の比較級 Do you want a faster or smaller computer? This CD player is bigger than that one. This computer is more expensive than that one. (cf. Can you speak louder?)</p>	<p>① 名詞の複数形 One hamburger. Two hamburgers.</p> <p>② How many CDs do you have? —I have five CDs.</p> <p>③ 勧誘文, 命令文 Let’s have lunch. Use this handkerchief.</p>
備考	<p>・Kでは、レストランなどでの注文の表現も本文中に登場する。 e.g. May I take your order? I’d like a hamburger and a coke. That’ll be 3,200 won.</p>	
韓日 中 1 L. 6	<p>① hope to-不定詞 I hope to visit Australia someday. I hope to see you again soon. Yun-ju hopes to do well in school this year.</p> <p>② 付加疑問 He is kind, isn’t he? It’s hot in Seoul these days, isn’t it? You like to watch movies, don’t you? Mi-na goes shopping every Sunday, doesn’t she?</p>	<p>① 一般動詞の三単現（肯定文） Lisa likes Japan.</p> <p>② 一般動詞の三単現（疑問文） Does she like kabuki? — Yes, she does./ No, she does not [doesn’t].</p> <p>③ 一般動詞の三単現（否定文） Koji does not [doesn’t] speak Chinese.</p>
韓日 中 1 L. 7	<p>① 位置を表す前置詞句 The post office is on the right. The bank is between the bookstore and the post office. The flower shop is next to the hospital. The museum is across from the library.</p>	<p>① 疑問詞whoの特別疑問文 Who is Bill? — He is my brother.</p> <p>② 時刻の尋ね方：What time is it? — It is eight (o’clock).</p> <p>③ How long are the classes? — They are fifty minutes long.</p>
備考	<p>・Kではtakeを使った時間を表す表現（It takes about 15minutes.）も登場する。 ・Jの“Speaking Plus”では、Which bus goes to City Hall? を学習する。</p>	
韓日 中 1 L. 8	<p>① 助動詞should / should not You should change your habits. You should not eat too much.</p> <p>② How often ~? 頻度を表す副詞（句） How often do you exercise? — Every day. / Once a week. / Twice a week. — Always. / Sometimes. / Never.</p>	<p>① Whereと場所を表す前置詞 Where is my CD? — It is on/under, by the chair.</p> <p>② Whoseと所有代名詞 Whose bag is this? — It is mine.</p> <p>③ 目的格の人称代名詞 This is Mike. Do you know him? This is Judy. Do you know her?</p>

備考	<p>・Kでは、助動詞canを使った可能表現、体調に関する表現も本文中に登場する。 e.g. headache, toothache, sore throat, stomachache, earache, cold</p>	
韓日 中1 L. 9	<p>① Shall we ~? Shall we go back? What shall we do?</p> <p>② have to ~, should be ~ We have to clean up the earth. (cf. I must go now.) We should be nice to old people.</p>	<p>① 現在進行形 Koji is cooking now.</p> <p>② Is he swimming? What is he doing?</p> <p>③ 否定命令文, beで始まる命令文 Don't drive fast. Be careful.</p>
韓日 中1 L. 10	<p>① I think ~ / I don't think ~ I think it is scary. ←I think + It is scary. I don't think it is scary. ←I think + It is not scary.</p> <p>② 接続詞whenを使った複文 When the holiday is over, children feel sorry. When I am tired, I go to bed early.</p>	<p>① 助動詞can We can see the game today. We cannot see the game today.</p> <p>② Can we ride on the boat? — Yes, we can. / No, we cannot.</p> <p>③ When can we see them? — We can see them at midnight.</p>
備考	<p>・Kでは、be afraid of ~, think of ~, like (~のような) などの表現、ハロウィンなど欧米の祝祭日の紹介も本文に登場する。 ・Jの“Speaking Plus”では、Can I open the window? (許可) や Can you help me? (依頼) も学習する。</p>	
韓日 中1 L. 11	<p>① S+V+O+O Funny stories teach us a lesson. (cf. Funny stories teach a lesson to us.)</p> <p>② 他動詞+代名詞+副詞の語順 (pick it up) They picked it up. (cf. They picked the wallet up. = They picked up the wallet.)</p>	<p>① 規則動詞の過去形 I walked across the bridge yesterday.</p> <p>② 不規則動詞の過去形 I went to school yesterday.</p> <p>③ 過去の疑問文・否定文 Did you study English yesterday? — Yes, I did. / No, I did not. I did not [didn't] study English.</p>
備考	<p>・Kでは、Whyを使った疑問文とBecauseを使った答え方も登場する。 e.g. Why do you like SF? — Because it's exciting.</p>	
韓日 中1 L. 12	<p>① 感嘆文 How diligent! How diligent the ox is! How pretty (she is)! (cf. What a good boy he is!)</p> <p>② Beで始まる命令文, 否定命令文 Be quick! Don't be noisy!</p>	<p style="text-align: center;">< 第1学年終了 ></p>
備考	<p>・Kでは、天気をたずねる表現 (What's the weather like? — It's snowing.) も本文中で学習する。</p>	

文法シラバスの日韓教科書比較表 (中学校第 2 学年)		
課	韓国の教科書 (<i>Middle School English</i>)	日本の教科書 (<i>New Horizon</i>)
韓日 中 2 L. 1	<p>① not ~, eitherの用法 He didn't have any friends, and he didn't have any family, either. I don't like cats, and I don't like dogs, either. (cf. I like cats, and I like dogs, too.)</p> <p>② 形式主語It ~ + to-不定詞構文 It's nice to see you again. It is important to be healthy. Is it difficult to learn to ski?</p>	<p>① be動詞の過去形 This cap was 2,000 yen last week. Was this cap 2,000 yen last week? - Yes, it was. / No, it was not.</p> <p>② 過去進行形 I was reading a book then.</p> <p>③ S+V (look)+C (形容詞) You look happy.</p>
備考	・ Kでは, 比較級や最上級を使った表現 (What is the most important thing in your life?) も本文中に登場する。	
韓日 中 2 L. 2	<p>① S+V (call)+O+C Naismith called the game 'basketball'. Everybody called the baseball player 'Big Mac'.</p> <p>② S+V (tell)+O+ to-不定詞 Tell him to go. The teacher told the students to be quiet. Who told you to sit down?</p>	<p>① 未来時表現 (be going to ~) I am going to visit Lake Towada tomorrow. Are you going to visit Lake Towada tomorrow?</p> <p>② S+V+O+O Show me your passport, please.</p> <p>③ S+V (call)+O+C We call it a moai.</p>
備考	・ Jの補充ページ ("Speaking Plus") では, May I use your pen? (許可), Could you read this letter for me? (丁寧な依頼) を学習する。	
韓日 中 2 L. 3	<p>① 接続詞althoughの複文 Although he was great, he was not very handsome. (cf. He was great, but he was not very handsome.) Although he was poor, he was happy.</p> <p>② ★S+V (使役動詞make)+O+C (原形不定詞) The tall black hat made him look very nice. The glasses make him see better. Heavy rain made us stay home.</p> <p>注) ★は日本の学習指導要領では, 高等学校で学習する言語材料を示す。</p>	<p>① 不定詞 (副詞的用法: 目的) I use a computer to play games.</p> <p>② 不定詞 (名詞的用法) I want to find some e-pals. I want to be a singer.</p>
備考	・ Kでは, 次のような間接/従属疑問も本文中に登場する。 e.g. Do you know why Lincoln grew a beard? He remembered what he had to do.	
韓日 中 2 L. 4	<p>① 受動態 They are used on all kinds of clothing. (cf. People use them on all kinds of clothing.) The book was written by a famous man.</p>	<p>① have to ~, don't have to ~ I have to speak English now. I do not have to speak English.</p> <p>② 未来の助動詞will</p>

	<p>② ★so that S+V (～するように) They use them to fasten the pockets on their jumpsuits so that small things don't come out. He started early so that he could get a good seat.</p>	<p>I will show you her picture tomorrow. ③ 助動詞must You must help your mother. You must not eat too much.</p>
備考	<p>・Kでは形容詞の最上級 (What's the highest mountain in the world?) が登場する。</p>	
韓日 中2 L. 5	<p>① S+V (使役動詞make) +O+C (形容詞) You can make it bigger. I'll make you happy. ② no + 名詞 I have no brothers. (cf. I do not have any brothers.) There was no bus on the street. (cf. There was not a bus on the street.)</p>	<p>① 接続詞ifの複文 If you can go, please call me. (Please call me if you can go.) ② I think that ~節 I think (that) we need a parking area. ③ 接続詞whenの複文 People complained when a bike fell on Kumi. ④ 接続詞becauseの複文 I am against the plan because we need our parks.</p>
備考	<p>・Kでは、大きな数字の数え方 (How many zeroes does a million have? - It has six zeroes.) も登場する。 ・Jの "Speaking Plus" では、What's wrong? - I have a headache. / I have a pain here. などの体調を表す文を学習する。</p>	
韓日 中2 L. 6	<p>① 現在完了 I haven't seen you for a long time. Where have you been? Have you been to London before? ② 関係代名詞which (主格・目的格) It shows many things which were used in wars. (cf. It shows many things. Many things were used in wars.) This is the dog which she bought yesterday.</p>	<p>① There be 構文 There is a present under the tree. There are some presents under the tree. ② Is there anything interesting in it? - Yes, there is. / No, there is not. ③ 動名詞 (目的語) I finished writing this poem. ④ Singing Christmas songs is popular. (主語)</p>
韓日 中2 L. 7	<p>① 動名詞 (主語・前置詞の目的語) Living in the city is exciting. (cf. I live in the city.) Thank you for joining the discussion. (cf. You joined the discussion.) ② 関係代名詞who I have a friend who can ski. (cf. I have a friend. He can ski.) I met a friend who knew you. (cf. I met a friend. He knew you.)</p>	<p>① 比較級・最上級 Godzilla is stronger than King Kong. Godzilla is the strongest of all monsters. ② This movie is more interesting than that one. This movie is the most interesting this year. ③ better, best Emi is my best friend. Life becomes better.</p>

備考	<p>・Jの“Speaking Plus”では、Shall I show you a bigger one? (申し出)を、また、“Let’s Chat”では、賛否の表現：I agree. (I think so, too.)/I disagree. (I don’t think so.)を学習する。</p>	
<p>韓国 中 2 L. 8</p>	<p>① get 比較級 and 比較級 The population is getting worse and worse. It’s getting warmer and warmer.</p> <p>② to-不定詞の形容詞的用法 Many animals have nowhere to live. I have nothing to do. Do you have anything to say?</p>	<p>＜第 2 学年終了＞</p> <p>以下は韓国教科書の内容</p>
備考	<p>・Kでは、意見を求める表現 (What do you think of ~?) も登場する。</p>	
<p>韓国 中 2 L. 9</p>	<p>① 不規則動詞wear - wore - worn What shall I wear to the movie? Children wore them to school.</p> <p>② 関係代名詞that He dyed the pants a deep blue that (=which) did not show dirt. Do you know the old man that (=who) lived across the street?</p>	
備考	<p>・Kでは、had betterの表現も本文に登場する。 e.g. You had better take an umbrella with you.</p>	
<p>韓国 中 2 L. 10</p>	<p>① 過去分詞による後置修飾 They had only simple tools made of wood. (cf. They had only simple tools which were made of wood) I got a letter written in English.</p> <p>② ～ high [tall, wide, long] The biggest pyramid is 140 meters high. The Great Wall is about 4 meters wide.</p>	
<p>韓国 中 2 L. 11</p>	<p>① ★S+V+O+O (疑問詞 + to-不定詞) You will tell the car computer where to go. Tell me what to do. Can you teach me how to drive a car?</p> <p>② be able to ～ The computer will be able to sense other cars on the road. Is the child able to speak? (cf. Can the child speak?) He broke his leg, and he is not able to (= cannot) walk.</p>	

文法シラバスの日韓教科書比較表 (中学校第3学年)		
課	韓国の教科書 (<i>Middle School English</i>)	日本の教科書 (<i>New Horizon</i>)
韓日 中3 L. 1	<p>① 動名詞の復習, a few Being able to speak a few foreign languages is my dream.</p> <p>② 関係代名詞whoの復習</p> <p>③ 従属疑問 Ask your teachers to help you choose which foreign languages you should learn. (★)</p>	<p>① 受動態 (肯定文) Braille is used by many people.</p> <p>② (疑問文) Is braille invented by a Frenchman?</p> <p>③ 使役動詞make+O+C (形容詞) The letters make us happy.</p>
韓日 中3 L. 2	<p>① 前置詞+動名詞 ★These steps can become powerful tools in helping you achieve your larger goals.</p> <p>② ★S+V (suggest)+O+C (原形不定詞) I suggest you go and see a doctor. 注) 「前置詞+動名詞」については, without saying a wordなど日本の中学校教科書でも扱われることはあるが, 上記の文構造は日本では高等学校扱いである。</p>	<p>① 現在完了 (継続) I have lived in Japan for 5 years. She has lived in Japan for 5 years.</p> <p>② (疑問文) Have you played the piano for 10 years? How long have you played the piano? —For 10 years.</p> <p>③ These girls have been here since early this morning.</p>
韓日 中3 L. 3	<p>① ★過去完了進行形 They had been walking for a day. She had been reading the book for three days.</p> <p>② ★関係副詞where He went to the hospital where the young man had stayed for a week.</p> <p>③ ★仮定法過去 What would you do if you were in my shoes? —I would call the police.</p>	<p>① 現在完了 (経験) Have you ever heard of a foster program? —Yes, I have. / No, I have not. I have never heard of it.</p> <p>② 現在完了 (完了) I have just finished my work. Have you finished your work yet?</p> <p>③ 不定詞 (形容詞的用法) I have a lot of work to do.</p> <p>④ 不定詞 (副詞的用法: 原因) We are glad to have a chance.</p>
備考	<p>・Kでは, 丁寧表現 (Would you mind repeating that?) も本文中に登場する。</p> <p>・Jの "Speaking Plus" では, Would you like to come with me? を学習する。</p>	
韓日 中3 L. 4	<p>① ★as if + 仮定法過去完了: It was as if we had been thrown into a clothes dryer.</p> <p>② used to ~ (過去の習慣): My mom used to do a lot of work around the house.</p> <p>③ ★No matter what ~ No matter what the day was like, we could always feel that we were together.</p>	<p>① S+V+O (疑問詞+to-不定詞) I know how to use a fan.</p> <p>② 形式主語It ~+ to-不定詞構文 It is difficult for me to understand Japanese.</p>

<p>韓日 中 3 L. 5</p>	<p>① 比較級で最上級を表す文 He is taller than any other boy in his class. Their ride was more uncomfortable than that of any of the high-wheel designs.</p> <p>② ★関係副詞why Another reason why people do not ride bikes is their lack of confidence. (=Because they lack confidence, people do not ride bikes.)</p> <p>③ ★助動詞might New bicycle riders might be afraid of hurting themselves. He might be sick.</p>	<p>① 分詞による後置修飾 This is a picture taken about 70 years ago. The people answering the telephone are operators.</p> <p>② 従属疑問 I do not know what you mean. (cf. What do you mean?)</p>
<p>韓日 中 3 L. 6</p>	<p>① ★関係代名詞whichの継続用法 I enjoyed swimming for two hours, which made me very tired.</p> <p>② ★関係副詞whereの継続用法 It took over an hour to walk to the top, where I could see the whole city.</p>	<p>① 接触節 (Contact clause) This is a book I bought in the United States.</p> <p>② 関係代名詞who Carson is the scientist who wrote <i>Silent Spring</i>.</p> <p>③ 関係代名詞that / which (主格) This is a movie that [which] makes us happy.</p> <p>④ 関係代名詞that (目的格) This is a book that she wrote last year.</p>
<p>備考</p>	<p>・Jの“Speaking Plus”では、want, tell + O + to-不定詞を学習する。 e.g. Do you want her to call you back? Could you tell her to call me back?</p>	
<p>韓日 中 3 L. 7</p>	<p>① 目的格の関係代名詞thatの省略 There's a kingdom on earth (that) you can visit at any time.</p> <p>② some ~, others ~ Some animals have a backbone, while others don't.</p> <p>③ 形式主語 It ~ + to-不定詞 It would be rude on my part, as a mere human, to write about animals. ★形式主語 It ~ + that節 It's a pity that animals cannot write.</p>	<p style="text-align: center;">< 第 3 学年終了 ></p> <p style="text-align: center;">以下は韓国教科書の内容</p>
<p>韓日 中 3 L. 8</p>	<p>① ★関係代名詞whichの継続用法 (節の挿入) The Korean flag, which is called the Taegeukgi, is rich in philosophical symbolism.</p> <p>② not ~ but These are not thought of as opposite to each other, but as two sides of the same coin.</p> <p>③ 接続詞as Most of the characters can be pronounced as they are written.</p>	

<p>韓国 中 3 L. 9</p>	<p>① ★関係代名詞whoの継続用法（節の挿入） An old woman, who lived next door, called at his house. The butterflies, who were too vain and selfish, would not give up any of their colors for the angels.</p> <p>② ★過去完了 I had wanted to visit you by day. They had given away all their colors except brown.</p> <p>③ Every time ~ Every time it rains, the little moths spread their colors across the sky to make more rainbow.</p>
<p>韓国 中 3 L. 10</p>	<p>① ★強調構文（It is ~ + that節） It was on this day that they could see the wonderful silver spaceship. It was yesterday that he came across his teacher on the street.</p> <p>② ★分詞構文（付帯状況） The crows would form long lines, each one holding his or her dollar. He took a walk, his dog following him.</p> <p>③ ★倒置構文 In them were small, horse-like animals. There goes a big, wonderful car.</p>
<p>韓国 中 3 L. 11</p>	<p>① 前置詞付の不定詞 Poems in English are fun to listen to. I need a pen to write with.</p> <p>② 接続詞asの複文 I hope you will get more books of poetry as time goes on. As we get more, we want more.</p> <p>③ 目的格の関係代名詞whichの省略 Poetry is part of the support (which) you take on board for the long journey of life.</p>
<p>韓国 中 3 L. 12</p>	<p>① so ~ that ... By 1775, relations with England had become so bad that the colonists were ready to fight for their independence.</p> <p>② ★動詞を強調するdo / does / didの用法 He did have a great mind and great moral strength.</p> <p>③ 分詞による後置修飾（関係代名詞節の省略） My uncle was the man (who was) fighting for our nation. A house (which is) divided against itself cannot stand.</p>

4.5. まとめの考察

4.5.1. 中学校英語教育における到達度

4.4.の文法シラバスの日韓中学校教科書比較表からも明らかなように、現在「総合的な学習の時間」の中で、「国際理解」の一環として、指導目標や内容から配当時間数までのすべてを各小学校の「裁量」に任せて行われている日本の「英語活動」に比べて、小学校3年生から本格的に始まる韓国での「教科としての体系的な英語教育」は、両国の中学校英語教育の入り口と義務教育終了時の出口における到達点において、質的に大きな差をもたらしている。韓国の中学校文法シラバスを見ると、第3学年で取り扱われている文法事項は、その大半が★印付きの、日本では高等学校で扱われるものであることが分かる。日本の中学校では必修科目としての英語が週3時間、一方、韓国は4時間という配当単位時間の差はあるが、それ以上に小学校英語の教育課程上の位置づけとその指導内容が大きく影響していると言えよう。

4.5.2. 学習者にとっての利点

韓国の小学校英語科の学習では、4年生でアルファベットの文字の書き写し活動が始まるまで、読み・書く活動は一切抑えられ、徹底した音声活動主体の内容である。そして中学校でも、各課の最初はリスニングから始まる。また、大量のリスニング・インプットを土台として、モデルの模倣・反復練習、学んだ表現を使ってペアやグループでインタラクションを行ったり、発表したり、ゲームをしたりする言語活動を通して、楽しみながらアウトプットする機会が児童にふんだんに与えられ、使いながら英語を身につける数々の練習や活動が提供されている。

文字指導については、小学校教科書分析の中でも注目して詳細に取り上げてみたが、種々のゲーム的活動を通して、以下に整理するように、(A)文字の「認知」、(B)文字による「表現」の両面から、長期的見通しを持って、児童のレデ

ィネスに配慮した継続的・段階的指導が行なわれている。

<韓国小学校英語の文字指導手順>

[4年次]

- ① アルファベットの認知活動(A)
- ② [Let's Read] を通して単語のspellingへの段階的習熟を図る活動(A)

[5年次]

- ③ 単語のcopying活動(B)
- ④ 歌詞をヒントに見ながらの歌やチャンツの活動(A)
- ⑤ 英文1文を読む活動(A)
- ⑥ 文字の整序や補充による単語の完成(B)
- ⑦ ワード・サーチなど、絵などをヒントに単語を探す活動(A)
- ⑧ ヒントなしに独力で単語を綴る活動(spellingの記憶)(B)

[6年次]

- ⑨ センテンスのcopying活動(B)
- ⑩ Dialogやpassageを読む活動(A)
- ⑪ 空所補充による自己表現作文(B)
- ⑫ 継続する2文、3文による作文(B)
(1文単位からdiscourseへの拡充)
- ⑬ 簡単なセンテンスを独力で書く活動(B)
- ⑭ 語句の整序作文などにより語順への意識化を図る活動(B)
- ⑮ モデルを参考にした「手紙」など、まとまりある文章のcreative writing(B)

文字体系を異にする外国人初学者が最初につまずきやすく、日本の中学校英語教育では、時間数の制約から、多くの場合、生徒の自己責任に委ねられている文字の導入指導や単語の綴り方指導が、実に丁寧に長期的スパンの中で構築されていることが分かる。

また、音声および文字を介した諸活動を通して、児童が少なくとも聞いて理解し、通じる発音で口に出して言えるよう慣れ親しむ語彙数

は、小学校4年間でおよそ500語である。この語彙力は、中学校英語学習の基礎として大きな力となることが期待できる。

4.5.3. 指導者にとっての利点

先にも触れた通り、韓国の小学校英語の指導者の大部分は、現時点では英語科の教員免許を持たない担任教師であり、この状況は日本と同様である。決定的違いは、『学習指導要領』（韓国では『教育課程』）に基づく共通の指導内容と到達目標の設定、それに準拠した国定または検定教科書の有無である。韓国の小学校教科書は、次のような点で、英語教育が専門でない担任教員でも指導できるよう、行き届いた配慮がなされている。

- ①十分なページ数の教科書の中に、そのまま使用できる活動が満載されており、巻末には児童が切り取って使用できる数多くのカードが付属するなど、タスクカードなどを教師が自作したり、自ら絵を描いたりといった準備の手間がほとんど不必要である。
- ②英語の運用能力に不安を持つ専門外の教師が、音声中心の英語指導を行なうに当たって必要不可欠な音声教材が準拠カセットで提供されており、加えて児童の自習用、教師の指導用それぞれのCD-ROMには動画と音声を同時に提供できる豊富なマルチメディア教材が完備されている。

なお、これは教員にとっては大きな負担ともなっているが、韓国ではおよそ15万人と言われる現職の小学校担任教師全員に対して、基礎コースとして年間120時間、上級コースでは245時間の英語教育研修が実施されていることも付け加えておきたい。

5. おわりに —英語教育の「構造改革」を求めて

以上、韓国の英語教育から参考とすべき点を述べてきたが、日本にも勝る学歴社会の韓国においては、保護者の異常なまでの早期英語教育

熱の高まりによる未就学児童の塾通いの増加などの問題が既に生じている。ソウル市教育庁が必修教科としての小学校英語教育開始後の97年夏に調査した結果、ソウル市内に146か所の幼児対象の「英語学院」が新規開設し、2万5千人の未就学児童が通い始めたり、幼稚園で小学校の英語授業内容を上回る水準の英語授業が開始されたことが判明し、ソウル市近郊の京畿道では「幼稚園の英語教育全面禁止」の指示を出す結果となったと言う（後藤・富田2001: 220）。また、小学校段階での児童の英語学力差の増大などの問題が生じていることもまた事実である。しかしながら、学校任せ、教員任せではなく、国としての責任ある教育政策として、小・中連結したカリキュラムと担任教師でも使用できる充実した教材が整備されている点、教員研修制度が確立されている点など、今後わが国が参考とすべき点は多い。

日本でも近年、民間の出版社から優れた小学校用のCD付きテキストが刊行されているが、有料であるため、ほとんどの公立小学校では一括採用することができず、児童のモデルとなる音声インプットは、地域によって必ずしも十分な派遣体制の整っていないALT頼みか、英語に堪能な地域ボランティアに依存しているのが現状である。

次期指導要領改訂に向けて、中央教育審議会・外国語専門部会が2006年3月に出した「小学校の英語教育の充実について」では、小学校5・6年生では、道徳などと同じ「領域」、もしくは「総合的な学習の時間」の中で週1単位時間程度、共通の教育内容を設定して実施し、1・2年生では「特別活動」の時間に、3・4年生では現在行なわれている「総合的な学習の時間」などでの「英語活動」の充実を図り、教科としての必修化については、今後の更なる検討課題とするという提言が行なわれた。

このような審議状況もふまえて、文部科学省は、小学校英語の充実のための条件整備を始動し、「小学校英語教育条件整備推進プラン」と

して、2007年度概算要求で、37億5,148万円を新規計上した。事業内容の三本柱として、①全国にモデルとなる「拠点校」を置き、地域全体の英語活動の底上げを図ること、②各学校の代表者1名を中核教員として育成とする「指導者研修」の実施と、情報提供のための「小学校英語総合サイト」の立ち上げ、③第5・6学年の児童と学級担任等に配布する「英語ノート」と付属CD、および教師用指導資料や電子化教材の作成と配布である。特に、③の「英語ノート」は、既にその編集作業に着手していると聞くが、わが国初の全国統一の国定小学校英語教材となり、その内容や準拠教材の質が注目されるところである。

トップダウンで動く韓国とは異なり、世論の動向を慎重に推し量りつつ、徐々にコンセンサスを固めて漸進する日本では、教育改革のペースも異なり、現在の動向には物足りなさも感ずるものの、日本のすべての小学生に外国語教育の機会を与えるという方向性は、現在の不安定な「英語活動」を一歩前進させるものとして評価したい。

今後、小学校英語の充実と教育課程上の位置づけについては、議論の場が中教審教育課程部会に移ることになるが、将来ビジョンとして教科化に踏み出すとするならば、まず、次の指導要領告示の際に、その次の改訂で教科化することを明らかにし、その日程に併せて、小学校での指導内容の検討と、それに付随して生ずる中高英語教育の目標および指導内容の再構築と学習指導要領の大改訂、指導要領に準拠した複数の民間出版社編集による小学校英語教科書の検定・発行と採択準備、現職教員に対する研修制度の拡充とともに、小学校での英語指導を専門とする教員養成の開始など、長期的見通しを持ったより本格的な条件整備が必要となろう。

中学校・高等学校学習指導要領における「コミュニケーションへの積極的態度と、実践的コミュニケーション能力の育成」という目標を達成し、日本の学校英語教育の到達度を高め、グ

ローバル化の中で異文化に対して心を開き、世界の人々と共生できる日本人を育成するためにも、小学校英語の位置づけを明確化し、小学校を礎として、中高の英語教育全体の構造改革を図ることが次に進むべき道であろう。わが国の英語教育では、生徒の知的関心と学習内容のレベルの乖離による学習意欲の減退、到達度の低さが問題になってきた。これを解決するような学校英語教育の枠組み再構築が小学校英語を契機に起こる可能性に期待したい。

最後に、筆者とともに韓国の小・中学校教科書の分析を行い、第2外国語として履修した朝鮮語の知識を総動員して教科書のハングル文字の指示文を翻訳してくれたゼミⅡ生の里美なぎさ君の協力に感謝するとともに、韓国の教科書入手に便宜を図ってくださった神奈川大学外国語学部助教授の尹亨仁先生、韓国小学校教科書の『教師用指導書』のコピーをお貸しくださった近畿大学語学教育部教授の樋口忠彦先生、準拠教材の音声テープとCD-ROMをお貸しくださった文部科学省初等中等教育局教育課程課・教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター・教育課程調査官の菅正隆先生に、この場を借りて御礼申し上げます。

<参考文献・資料>

- 大谷泰照・林桂子・相川真佐夫・東眞須美・沖原勝昭・河合忠仁・竹内慶子・武久文代（編著）（2004）、『世界の外国語教育政策—日本の外国語教育の再構築に向けて』東京：東信堂
- 大谷泰照（2006）、「諸外国の外国語教育政策と日本の英語教育」英語授業研究学会・第18回全国大会『発表資料集』
- 菅正隆（2006）、「どうする？どうなる？小学校英語」英語授業研究学会・第18回全国大会『発表資料集』
- 河合忠仁・鄭正雄・仲西美恵・林桂子・吉川靖弘（2005）、『日本の学校英語教育はどこへ行くの？—英語教育の現状リサーチに基づいて』東京：松柏社
- 後藤典彦・富田祐一（編著）（2001）、『はじめてみよう！小学校・英語活動』東京：アプリコ

- ット
- 高橋一幸 (2001), 「公立小学校での英語学習の位置づけとその内容—文部科学省『小学校英語活動の実践の手引き』を読む」日本児童英語教育学会 (JASTEC) 関東甲信越支部研究大会, 発表資料
- 高橋一幸 (2002), 「“小学校に英語導入”で日本の英語教育はどうなるか—現状と課題・期待と展望」(別冊『英語教育Fifty』第51巻第3号, p. 65, 特集:「英語教育これからの50年を考える」) 東京:大修館書店
- 高橋一幸 (2003), 『授業づくりと改善の視点—よりコミュニカティブな授業をめざして』「英語授業ライブラリー第1巻」, 東京:教育出版
- 高橋一幸 (2004), 「子どもたちに英語を学ばせる意義とその方法—今,なぜ小学校で“英語活動”なのか?」福岡女子大学公開フォーラム・講演資料
- 高橋一幸 (2006a), 「小・中連携英語教育カリキュラムの開発に向けて—成果と今後の課題への示唆」平成16・17年度川崎市教育委員会研究推進校・小中連携研究発表会・資料
- 高橋一幸 (2006b), 「小学校英語活動の現状, 指導と今後の展望」平成18年度横浜市立立野小学校英語活動研究会・講演資料
- 中央教育審議会教育課程部会・外国語専門部会 (2006), 「小学校の英語教育の充実について (審議のまとめ)」
- 日本教育新聞 (2006), 「指導要領にらみ小学校英語の条件整備始動—文科省来年度概算要求」10月9日号
- 樋口忠彦ほか (編著) (1997), 『小学校からの外国語教育—外国語教育改革への提言』東京:研究社
- 樋口忠彦・行廣泰三 (編著) (2001), 『小学校の英語教育—地球市民育成のために』名古屋:KTC中央出版
- 樋口忠彦・金森強・國方太司 (編著) (2005), 『これからの小学校英語教育—理論と実践』東京:研究社
- 松川禮子 (編著) (2005), 『小学校英語活動を創る』東京:高陵社書店
- 文部科学省 (2001), 『小学校英語活動実践の手引き (Practical Handbook for Elementary School English Activities)』東京:開隆堂出版
- 文部科学省 (2002), 「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」
- 文部科学省 (2003), 「『英語が使える日本人』育成のための行動計画」

- 文部省 (1998a) 『小学校学習指導要領』
- 文部省 (1998b) 『中学校学習指導要領』
- 文部省 (1999) 『高等学校学習指導要領』
- NHK教育テレビ (2006), 「小学校に英語がやってくる?—教室で何が起きているか?」11月5日放映

<分析対象教科書>

- 大韓民国・教育人的資源部 (編) (2002a), *ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH 3~6*.
- 大韓民国・教育人的資源部 (編) (2002b), *ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH. TEACHER'S GUIDE 3~6*.
- Shin Myon-hoほか7名著 (2005), *Middle School English 1~3*. ソウル:キョハク社
- 笠島準一・浅野博・下村勇三郎・牧野勤・池田正雄ほか49名著 (2006), *NEW HORIZON English Course 1~3*. 東京:東京書籍
- 佐野正之・山岡俊比古・松本青也・佐藤寧ほか33名著 (2006), *Sunshine English Course 3*. 東京:開隆堂出版
- 高橋貞雄ほか34名著 (2006), *New Crown English Series 3*. 東京:三省堂
- 東後勝明ほか17名著 (2006), *Columbus 21 English Course 3*. 東京:光村図書出版
- 堀口俊一ほか19名著 (2006), *Total English 3*. 東京:学校図書
- 松本茂・伊東治巳・高橋一幸ほか24名著 (2006), *One World English Course 3*. 東京:教育出版

A Contrastive Study of English Language Textbooks Used in Compulsory Education in Korea and Japan

—— To Think of the Present Problems and the Future Design
of Public English Language Education in Japan ——

Kazuyuki Takahashi

ABSTRACT

The latest revision of the MEXT Course of Study allowed individual elementary schools to implement “English Activities” as a part of “International Understanding Studies”, during the “Periods for Integrated Studies” also known as “*Sogo-teki na Gakushu no Jikan.*” It was recently reported by the Ministry of Education (MEXT) that “English Activities” are now practiced in 93.6% of all elementary schools in Japan. However, the time allotted to these “English Activities” varies greatly among schools. The level of the classes also differs from school to school, because the homeroom teachers, who are uncertified to teach English, have no authorized textbooks to use as it is not an official subject. Under the current education system, it is impossible to link up these activities practiced in elementary schools with junior high school English language education, which seems to be a very inefficient policy.

In South Korea, which has a similar EFL (English as a Foreign Language) environment to that of Japan, English has been officially taught as a compulsory subject from the 3rd to the 6th grade in elementary schools since 1997. There, English is systematically learned according to a national syllabus using textbooks edited and published by the Ministry of Education. These textbooks full of games, songs, chants and many amusing and interesting language-use activities come with their own audio cassette tapes and multi-media CD-ROMs. Using these materials, the pupils learn English once a week for 45 minutes in the 3rd and 4th grades, and twice a week in the 5th and 6th grades.

How much difference will be made in the learners’ acquisition of English by these differences in educational systems between the two nations? In this paper, the content of the Korean textbooks for elementary schools will be minutely analyzed. Furthermore, a contrastive analysis will be made of the contents of the text and activities in the first and the last lessons, and of the grammatical syllabuses of the whole junior high school textbooks of both countries. On the basis of these analyses, some suggestions will be given regarding the future design of the public English language education of our nation.